

ご注文の際、プライス・コードもご記入下さい。

プライス・コード{a ¥ 1 6 9 0/A ¥ 1 8 9 0/B ¥ 2 0 9 0/C ¥ 2 2 5 0/D ¥ 2 4 9 0}

(表示価格は税抜き) 別途消費税が加算されます

[www.tambourine-japan.com](http://www.tambourine-japan.com) email: [song@tambourine-japan.com](mailto:song@tambourine-japan.com)

注文方法サイト: <http://www.oct-net.ne.jp/tambouri/order.htm>

## Fairport(P16) England(P26)

### [DVD/UK] NTSC all regions

※国内製 DVDプレーヤーで再生可能

- \*ALLAN TAYLOR:The Endless Highway ¥2680  
(DVD&ブルーレイディスクの二枚組セット。ジャック・ケルアックの本をポケットに入れ、旅するフォーク・シンガーの道を歩み始めた Allan Taylor の自叙伝的ドキュメンタリー・フィルム。Dick Gaughan とのデュエット映像など、彼のフォーク・シンガーとしての歩みと音楽の背景がよく理解出来る内容。映像が彼の唄の世界のように美しい。約 1 時間 10 分。2009 作。Stockfish)
- \*ALBERT LEE&HOGAN'S HEROES ¥1500  
:Live At Stazione Birra, Rome  
(Albert Lee&Hogan's Heroes のローマでの約 2 時間の白熱のライヴ。70 年代の Albert Lee のスタイル{カントリー・ロック}そのまま。全 25 曲。112 分。2009 作。Heroic)
- \*ALBERT LEE&HOGAN'S HEROES:Live In Paris ¥1500  
(2003 年パリでの約 2 時間のライヴ。どっぷり 70 年代スタイルのカントリー・ロック ~ 南部ロックのアメリカン・ロックの世界。全 22 曲。102 分。Heroic)
- \*JOE COCKER:In Concert A  
(81 年の白熱のコンサート・ライヴ。“Feelin' Alright”, “A Whiter Shade Of Pale”, “Watching The River Flow”, “Delta Lady”, “You Are So Beautiful”, “With A Little Help From My Friends”他 Joe Cocker の十八番アルバム・レートの 13 曲。スウィーな南部ロックも最高。2003 作。トイ Alpha Centauri)
- \*MEIC STEVENS:An Evening With Meic Stevens C  
(2007 年 7 月、ロンドンでのライヴ。デビュー時は「ウェルズ」のホブ・テイランと呼ばれたこともあった Meic だが、今は齢を重ねた Randy Newman のようないぶし銀の味わいを醸し出している。SSW の中の SSW を実感させる全 15 曲収録のライヴ映像だ。2008 作。Sunbeam)
- \*ERIC CLAPTON:Music In Review A  
(Yardbirds や Cream 時代そしてソロになってからの希少映像を挟みながら Jack Bruce や “Cream” の著者 Chris Welch 等が E. Clapton を語るドキュメンタリー-DVD。“Layra”, “I Shot The Sheriff”, “Sunshine Of Your Love”, “Crossroads”, “It's Too late”, “Wonderful Tonight” and more. 61 分。Sandbeach)
- \*VAN MORRISON:Under Review 1964-1974 A  
(様々なライヴ映像を含む貴重映像と写真を挟みながら彼の音楽変遷をアルバムごとに詳細に紹介するドキュメンタリー-DVD。112 分。2008 作。Sexy Intellectual)
- \*LINDISFARNE:Classic Rock Legends B

(Lindisfarne の白熱ライブ。“Lady Eleanor”, “Meet Me On The Corner”, “Roll On That Day”, “Everything Changes” 等等など 11 曲。80 分。2001 作。Carlton International Media)

**[CD/UK, IRELAND]**  
**(FOLK, SSW, ROCK)**

\*ANNE RYNNE: Anne Rynne

B

(Christy Moore の妹さんで、Luka Bloom の姉さんの Anne Rynne の初ソロ・アルバム。プロデュースは Luka Bloom で、ギターとヴォーカルで共演する。Anne は Neil Young や Jackie Oates や Eddi Reader や Gillian Welch などのフォーク/SSW系の歌に自身の思いや思い出を託して、ギターの弾き語り、丁寧で誠実にうたい通す。黒づくめのジャケットの印象と相まって、美しいギターの響きとともに聞こえてくる温かな Anne の唄たちは深い闇の中から聞こえてくるかのよう。唄の素朴な美しさに心惹かれてしまう今どき珍しい珠玉の逸品だ。本作は、Anne のご主人の Davoc Rynne と夫妻の子ども達や孫達などに捧げられている。2016 作。Big Sky)

↑前回「直前入荷」の慌ただしい中でコメントを書きました。今回、じっくり聴いて、コメントを書き改めました。

\*RAY DAVIES: Americana

C

(Ray Davies の 10 年振りの新作は、Jayhawks を従えて制作された本作は、2013 年に出版した自伝“Americana”のプロモーションために米国内をまわった経験を元に作詞作曲した R. Davies の新曲集。この声はやや枯れた感じはするものの間違いなく R. Davies だし、ふわふわしたメロディと哀愁漂う曲調はまぎれもなく R. Davies。その R. Davies の唄は、Kinks の“Muswell Hillbillies”や“Everybody’s In Showbiz”の頃の R. Davies がそのまま齢を重ねたような味わい。Jayhawks のロックはまるで長い間 Ray のバックバンドを務めてきたかのように阿吽の息で、Ray は Jayhawks の豊富なロックにハマってる印象さえ持つ。変な話だが、Jayhawks の米国臭く旨みのあるロックの見事に舌鼓を打ってしまった。2017 作。Sony Music)

\*THE HENRY GIRLS: Far Beyond The Stars

B

(アイルランドの女性ヴォーカル・トリオの Henry Girls の新作は、アイルランドのドニゴール録音で、助っ人もアイルランド人ミュージシャンだというのに、どっぷり米国臭いフォーク〜ルーツロック。むしろ本場ものより、米国大衆音楽っぽい。持ち前の古き良き米国音楽の香り立つ彼女達のヴォーカル&ハーモニーは、本作においても絶好調で、むしろ、そうした音楽が板に付いたというか、とりわけ彼女達のスウィートなハーモニーは、かつてなく表現力が豊かで、最高に輝いている。10 曲目の“Falling In Love Again”から 13 曲目のラスト曲“I’m Your Baby”までのノスタルジックな夢見心地さは、米国ノスタルジー系ルーツミュージックとして絶品で、すっかり夢の中。出来過ぎなくらい美味。2017 作。The Henry Girls)

- \*I DRAW SLOW:Turn Your Face To The Sun A  
 (I Draw Slowは、アイルランドのダブリンを拠点に活動する米国  
 ルーツ志向の一姫四太郎のフォーク・グループ。Chieftains や Van  
 Morrison のレコーディングを手がけた Brian Masterson を共同プ  
 ロデューサーに迎えて制作された本作は、Dave&Louise Holden 兄  
 妹のヴォーカル&ハーモニーは、Gillian Welch&Dave Rawlings  
 風だったり、グループとしての親和感は Carter Family 風だったり、  
 加えて、Louise のヴォーカルは Gay&Terry Woods の Gay Woods の  
 Gay Woods に似ていて、よく似た陰影感があって、オールド・スタ  
 イルのアイリッシュ&アメリカン・フォーク風なオリジナルな音楽  
 を創作していて、唄も音楽も軽やかだが、奥が深く味わいも深い。  
 面白いグループだ。2017 作。Compass)
- \*ORLA FALLON:Sweet By And By C  
 (“Celtic Woman”の歌姫 Orla の新作は、「500マイル」や「テネシー  
 ワルツ」や「ラブ・ミー・テンダー」やフォスターの“Hard Times  
 Come Again No More”などケルティックな叙情が香るフォーク・ソ  
 ング集。彼女のそよ風吹くシンギングと軽やかなアイリッシュ・フ  
 ォークなサウンドは、たただ心地よい。すべてかエヴァーグリーン  
 なる輝きのあるフォーク・ソング。すっかり夢見心地。w. Feargal  
 Murray, Ewan Cowley, Lynda O' Connor, Joe Csibi。2017 作。  
 Orla Fallon)
- \*NED ROBERTS:Outside My Mind B  
 (1970 年代の SSW 風ジャケット・デザインと LP ジャケットのような  
 ジャケットの紙質、中身は 1970 年代の陰りの感じられる英国 SSW  
 っぽいヴォーカルとサウンド。録音は米国のロスで、Ned のギター  
 の弾き語りベースだが、音が 1970 年代初期の米国ロックを志向し  
 た心あるブリティッシュ・フォーク～ロックの匂いをほのかに立  
 てていて、ニンマリ。主に愛や希望をひっそりとうたう Ned の唄は、  
 何とも心優しい。希少な SSW アルバム。2017 作。Aveline)
- \*WINTER MOUNTAIN:I Swear I Flew B  
 (Winter Mountain 名義の本作は、英国コーンウォールの SSW の  
 Joe Francis のソロ。Winter Mountain は二人組時代の名らしい。  
 ソロだが、Seth Lakeman とのデュオを要にした音楽は、「一人イ  
 ーグルス」の印象を持つ足腰のしっかりしたフォーク・ロックで、  
 心をワクワクさせる。Bruce Springsteen や Neil Young の影響を  
 受けたそうだが、実際に聴く Joe の唄は、端正で、朝日に向かって  
 まっしぐらな感じだ。アコースティック&エレキギターもステ  
 ィール・ギターもドラムスも前向きな輝きがあって、気分もシャ  
 ンとする。2016 作。Astral Foc)
- \*JACK HARRIS:The Wide Afternoon B  
 (よくありそうな名前の SSW の、よくありそうなヴォーカルの唄に  
 すっかり釘付け。そのよくありそうなヴォーカルだが、Jack  
 Harris なる SSW の唄への没入度と唄の表現力は並外れているし、  
 自身の卓越したギターを要にした伴奏は、Jack の心動かす唄と連  
 動して、豊かな表現力で魅せる。SSW アルバムとして完璧。ほめち  
 ぎっても足りない。Jack は 2005 年に 19 歳のときに米国テキサスで

開かれている Kerrville Folk Festival に出場し、英国人初の優勝者に輝いている。2017 作。Rootbeat)

\*GOAT ROPER RODEO BAND: Cosmic Country Blue B  
(このウエールズの三人組の Gram Parsons 風カントリー・ロックの何と胸キュンなこと！メンバーは Tomas Davies {ダブルベース、ヴォーカル}, Jim Davies {リード・ギター、ヴォーカル}, Sam Roberts {リズム・ギター、ヴォーカル}。誰がリード・ヴォーカルかわからないが、G. Parsons のヴォーカルの甘み濃くして、フレンドリーな親しみやすさを濃くしたような心ほんわかになる、個人的に理想のカントリー・ロック。2016 作。Aveline)

\*ALI MAAS & MICKY MOODY: Black & Chrome B  
(とびっきり本醸造なルーツロックと遭遇。女性シンガーの Ali は、百戦錬磨の上のゆとり感の渋みとコシと伸びのあるヴォーカルで圧巻だし、相方の Micky は、SSW 系名盤“Young&Moody”の片割れで、Juicy Lucy、Whitesnake の Micky Moody で、つぼを得たスライド&エレキギターと二流センスのヴォーカルは、年季が入って圧巻。二人のロックは、まるで 1970 年代の英国のブリティッシュ・ロック〜パブロック辺りで止まったままのような真に米国ルーツロック志向のブリティッシュ・ロック。その純粋な志向性が自ずと音楽を豊かにし、味わい深いものになっている。2016 作。Armadillo)

\*RALPH McTELL & WIZZ JONES: About Time A  
(本作は 50 年前に Ralph McTell が Wizz Jones の招待を受けて共演したのを記念して、今度は Ralph McTell が Wizz Jones を招待して実現した二人の初共演盤。50 年前の共演の経緯を二人が書いているけど、お二人とも 50 年も前のことをよく覚えていますね！お二人とも心は、Woody Guthrie などのアメリカン・フォークやブルースのコピーや、そしてフォーク・ギターの修練に夢中だった時代にすっかりタイムスリップ。二人の阿吽の息は見事で、もう何十年もデュオとして活動してきたかのように、ヴォーカル・ハーモニーも、ギター演奏も決まっている。2016 作。Leola)

\*TONY REIDY: Round Tower Blues B  
(世の中可笑しなおっさん SSW がいるもんだ。バンジョー、マンドリン、ギターを取っ替え引き替え、時に多重録音をしてうたう、この Tony のうたは何ともほっこり。Michael Hurley に似た雰囲気もあることはあるが、このおっさん Tony は物言わぬものに語りかけるように波静かで穏やかで、その眼差しは優しい。唄は飄々感はあるものの Johnny Duhan のような唄の響きだから、唄それ自体が心地よい。ショッピングセンターでコネマラの女性の独特なトーンのおしゃべりから彼女のご先祖様の歴史を夢想してしまうその発想のとっぴさとユニークさが楽しい。唄はとても人なつっこい。2015 作。Tony Reidy)

\*MICHAEL WESTON KING: Live... In Dinky Town A  
(地震で発見。久しぶりに聴いて感涙。何とも物悲しい響きのギターの弾き語りライブ。Tim Hardin の名盤“The Homecoming Concert”くらい身にしみる…。2002 作。Twah!)

- \*KRIS DREVER:Black Water & Live A  
(リマスター・デラックス版。二枚組。2012 作。Reveal)
- \*PAUL MILLNS:Unsang Heroes B  
(Paul Millns の 1997 年録音で 1998 年リリースのアルバム。1998 作。April Music))
- \*MARY HAMPTON:My Mother's Children B  
(Vashti Bunyan 等 1970 年代のブリティッシュ・フォークの香りのちよっと不思議な雰囲気的女性 SSW。夢想の世界をか細い、少し震える声でうたう。自身のギターやピアノを中心にした鳥のさえずりなども取り込んだサウンドで、「壊れやすさ」で完璧。2008 作。Navigator)
- \*SAFFRON SUMMERFIELD:The Stonemason's Dream A  
(地震で発見。英国のカントリーサイドの穏やかさが感じられる Saffron のたおやかなギター [1972 年製 Guild D35] の弾き語り。Robert Jarvis のトロンボーンがのどかさを運ぶ。アイルランドの伝統曲 "The Dawning Of The Day" のメロディを拝借した "On Raglan Road" 他全 9 曲。のほほーん。2002 作。Mother Earth Music)
- \*ELLE OSBORNE:It's Not Your Gold Shall Me Entice A  
(本作が三枚目の英国の女性 SSW の Elle の新作。彼女の音楽資質は Shirley Collins や Lal Waterson などの英国フォーク/トラッド。面白いことに共演者は Alan Roberts の息子でフォーク・シンガーの Alasdair Roberts やスコットランドのフォーク・ロック・バンドの Trembling Bells の Mike Hastings と Alex Neilson 等のスコットランド勢。そんな組み合わせで生まれた本作は、今日の錬磨された英国トラッドとは一線を画した 60 年代後半から 70 年代初期のブリティッシュ・フォークの肌触りを感じさせる粗いフォーク。2015 作。9th House)
- \*HUW M:Gathering Dusk B  
(ウェールズの業者のカタログを見ていて、偶然に目に留まった、まるで 70 年代の夢見る SSW のような、同じウェールズの Meic Stevens の唄にも通じるような魅力的なアルバム。彼の唄の世界は夢うつな世界。朝日の中で、夕日の中で、その心地よい時間の流れを楽しむかのような穏やかで美しい唄の数々。自身が爪弾くギターをはじめ、アコースティックなサウンドも彼の唄の色に彩られている。Bethan Reynolds とのハーモニーと共に夢の世界へ。朝、目覚める頃、夢うつなまどろみの中で聴きたい。発売年は 2011 年。Gwymon)
- \*JAKE WALTON:Silver Muse B  
(新曲に過去の曲を加えて新録した本作は、"The Gloaming Grey" を包んでいた英国的愁い [その愁いはケルトの神話への愛着や故郷コーンウォールへの想いに発する愁いなのだが] が、同じように感じられるアルバムとして美しく結実。Jake 自身、自分の歩みを振り返りつつ、同時に改めて自身の音楽のルーツを確認し、新たな気持ちで音楽する快さに充ちている。伴奏は Jake のギター、ダルシマー、ハーディ・ガーディと Eric Liorzou のマンドーラ、ギターの二人の演奏を軸にしている、そのアコースティックな響

きが、本作の新鮮さを高めている。全 15 トラック。2015 作。Celtic Monkey)

\*LIAM MERRIMAN & EOIN O' MEACHAIR: The Birds Never Cease C  
(Liam Merriman はアイルランドのウォータフォードのヴェテラン SSW だが、近年はナッシュビルをも拠点にレコーディングと演奏活動をしていて、本作は同郷の Eoin O' Meachair {ハヅ'ォー、マド'リン、マイル} をパートナーに迎えて、ナッシュビルで録音したもの。本作は男性 SSW タイプの音楽だが、結構胸キュンになる。Liam 自身は Christy Moore や Christie Hennessy 等のアイリッシュ・シンガーが描いてきた世界や風景を意識して制作したそうだが、聞こえてくる音楽は、夢の世界をうきうきと旅してまわるような心の自由さと優しさが感じられ、気分清々しい。野原でうたう「唄のおじさん」的な Liam の優しいうたも心惹かれるし、隠し味的に盛り込まれたアイリッシュな爽やかなサウンドが、朝、野原を散歩するように気持ち良い。2015 作。Three Rivers)

\*CATHERINE HOWE: Because It Would Be Beautiful B  
(かつて 1970 年代、ブリティッシュ・フォーク界の歌姫だった Catherine Howe の新作。Vo Fletcher {ギ'ター}, Ric Sanders {ヴァイ'オリン}, Michael Gregory {ド'ラムス} がバックを務めていて、Vo Fletcher のミステリアスなギターをフィーチャーした弾き語りのフォークとバンド形式のフォーク・ロックとが混在したスタイルを取っている。Catherine 様を中心に同窓会的雰囲気楽しい。2015 作。Talking Elephant)

\*ALISTAIR OGILVY: July Moon C  
(スコットランドの SSW として大物の器の Alstair の 2014 作。Alstair の唄は歌唱力に相応しく雄大。しかも雄大であり、かつ繊細。スコットランド風の叙情も感じられる。根っこの部分に、Runrig のようなスコットランド魂が感じられる。ゲスト: Karen Matheson。2014 作。July Moon)

\*LESLEY CURTIS: Looking For The Girl A  
(女性 SSW の Lesley Curtis の信じられないほど美味なアメリカなロック。エレキギター、スティールギター、ドブ'ロ、マド'リン、オル'ガン、ベース、ド'ラムス等の楽器編成のロックは、1970 年代の頃あたりの爽やかなカントリー・ロック風で、Lesley の唄は爽やかに輝いている。ある意味時代遅れのア'ロ'グ'なカントリー・ロック風サウンド' だが、たつぷりと自分の好みのサウンド' に充ちたサウンド' の中でうたう Lesley の唄は清々しくて何とも心地よい。2015 作。Curly Lettuce Production)

\*JASON STEEL: Fire Begot Ash A  
(70 年代 SSW ファン、ブリティッシュ・フォーク・ファンはニンマリ一枚。ギター、或いはバンジョーを爪弾きうたう J. Steel の音楽は、Michael Hurley 風の気楽さと英国の田舎っぽさと Bert&John 風ギター等が混ざり合った心地よい音楽。最愛聴盤。Rif Mountain)

\*STEVIE PALMER: Heartprint Shadow A  
(イアン・マッシュズを想起させるヴォーカルと曲によってはヘロンを想起させる牧歌&夢想フォーク・サウンドは心穏やか。夢想的で信じられないほど歌詞が詩的で心優しい唄ばかり。w. Mary

MacMaster, Steven Polart, Kim Edgar, Wendy Wetherby, Allan Knox. 2010 作。Greentrax)

- \*MARY JANE: Tacit A  
(70年代ブリティッシュ・フォークの麗しさを追い求める Mary Jane の3枚目はライヴ・セッション。Fairport, Steeleye, Trader Horn, Trees のブリヴ・アーが  
お好みの方は必聴。“Matty Globes”そっくりな“Lady Margaret”,  
“She Moved thro’ the Fair”, “Blackwaterside”ほか全13曲。2000  
作。Seventh Wave)
- \*THE STEPPES: Drop Of The Creature a  
(アイルランド・アメリカ人によるフォーク・ロック・バンド。70年代サイケ・ロックとブリティッシュ・  
フォークとが出会ったようなミステリアスなロック。70年代趣味丸出し。97作。  
Delerium)
- \*STONE ANGEL: East Of The Sun B  
(Stone Angel の素晴らしい New。理想のブリティッシュ・フォーク&トラッド。  
2001作。Kissing Spell)
- \*VASHTI BUNYAN: Lookaftering A  
(二枚目。薄型ジュエル・ケース仕様のサンプル盤。2005年。Fat Cat)
- \*JENNIFER CROOK: Carnforth Station A  
(ハープ奏者で SSW の Jennifer Crook の三枚目に当たる新作。旅の思  
い出など、Jennifer が紡ぎ出す音楽は自然な抑揚があって、詩情  
豊か。声自体が美しく魅力的だが、うたう詩のリズムから発生する  
メロディに彼女の情感が乗り移った印象で、夢の中で唄の旅をする  
気分。Jennifer {ヴォーカル、ハープ 他} に Eliza Carthy Band の Beth  
Porter {チェロ、フイドル、ハーモニウム・ヴォーカル}、Jackie Oates Band の Mike  
Cosgrave {ギター、アコ、ハーモニウム・ヴォーカル} のトリオ編成。ピカー。2014作。  
Long Tale)
- \*SUSAN McKEOWN: Belong C  
(アイルランド人女性シンガーの Susan McKeown の2014年作。本作はこれま  
でのアルバムの中で異色。Maria Muldaur のようなノスタルジック・ムードの  
声が裏返る唄やクリスマス風安酒場っぽい唄など、ひと味違う。大人  
の女性ムードの魅惑の SSWアルバムなのだ。2014作。East River Music)
- \*JOHN MARTYN: No Little Boy ¥1000  
(w. Levon Helm, Gerry Conway, Spencer Cozens, Dave Gilmour,  
Phil Collins, Alan Thompson, etc. 1993作。Parmanent)
- \*THE HENRY McCULLOUGH BAND: FBI Live D  
(2007作。Mundell Music)
- \*STEVE TILSTON: The Reckoning B  
(ブリティッシュ・フォーク・ギター奏者として、かつシンガーとして大ウエーランの  
Steve の本作は全て自作作曲。気高く繊細で、かつ気品のあるギターの  
響きとクリアとして穏やかな唄は愛おしいほど美味。英国フォークの名  
盤。2011作。Hubris)
- \*ELLIOTT MURPHY・IAIN MATTHEWS: La Terre Commune A  
(異色のデュオ。それぞれのソノの持ち味とデュエットがバランスよく収められ  
た友情盤。2001作。ドイツ Blue Rose)
- \*LUCY WARD: Single Flame B  
(若き女性 SSW の Lucy Ward は、2012年、BBC のフォーク部門で「新人賞」に

当たる“Horizon Award”を授賞。本作は二枚目。Lucy が作る唄は独特だ。英国の昔話、特に不気味な話や不思議な話が好きで、そんな世界を自分で創作して唄にした感じで、音楽が彼女の世界、宇宙として結実している。トラッド曲が二曲ある。その内の一曲「神様、私は嵐の中で死にたくありません」[船津訳]は、June Tabor のトラッド的世界にどきっとさせられもする。Produced by Stu Hanna。2013 作。Navigator)

\*SONNY CONDELL:Swallows And Farms A  
(Tir Na nOg [ティル・ナ・ノグ] の Sonny Condell のギター弾き語りの 2013 年作。唄も緑の楽園に住む吟遊詩人っぽくて、70 年代の夢見るブリティッシュ・フォーク・シンガーの花畑～田園の夢世界ムートにほんわかと包まれていて、信じられないほどふわふわな音楽。彼の気ままに吹く風のようなふわふわな唄とクリスタルな輝きを放つ彼の独特なアコースティック・ギターのサウンドが織り成す最高に極楽な自閉的 SSW 音楽の世界だ。2013 作。Irish World Music)

\*CEDARS:Little Copper Still A  
(Cedars は紅一点の女性シンガーの Chantal Hill がヴォーカルの英国のルーツ・ロック・バンド。彼らのルーツ・ロックはかなり本醸造。Chantal のヴォーカルは古いブルース・シンガーやポピュラー・シンガーの妖艶さを放ち、それでいて現代のフォーク・シンガー風でもあって、熱いスライド・ギターやハンツォーの演奏はストレートにロック化していて、熱い。ルーツの匂いがたっぷり。2013 作。Clubhouse)

\*JOE COCKER:Fire It Up ¥2690  
(CD+DVDセット。DVD は PAL 方式。久し振りに聴く Joe Cocker は、この 40 年あまり、結局南部ロックにとりつかれら音楽人生だった、ということ。同じ釜の飯を食った仲間達の多くが、音楽的にも、実際にも第一線から身を引いていった中で、Joe はしぶとく南部ロックを第一線で演じてきた。アルバム・タイトルが示すように、特に本作が「熱く」演じたアルバムなのかも知れないが、70 年代初めの Mad Dogs&Englishmen 時代となんら変わらぬ入魂の唄と南部フィーリング溢れるロックにすっかり骨抜きになる。8 曲目“You Don't Know What You're Doing To Me”は“You Are So Beautiful”を想起させるソウルな美しい曲。DVD は CD 収録曲の中から 6 曲のライブが拝める。2012 作。ドイソ Sony)

\*ALASDAIR ROBERTS:Farewell Sorrow B  
(Andy Roberts の息子でスコットランドの SSW の Alasdair の孤独感漂うやる気のないヴォーカルと伝承歌的夢物語の世界で遊ぶ独り言的唄達は何とも不思議な世界へと誘う。2003 作。Rough Trade)

\*NAOMI BEDFORD:Tales From The Weeping Willow B  
(Naomi はまるで英国の Emmylou Harris。今の Emmylou ではなく、70 年代の。Naomi の声の響きは白人系アメリカン・ルーツ音楽の故郷のような響きなのだが、土臭さよりはむしろ優美さや夢見心地感が感じられるもの。鮮やかなアコースティック・ギターの伴奏を中心にしたサウンドも新鮮。2011 作。Dusty Willow)

\*KEITH CHRISTMAS:Live At The Pump A  
(齢を重ねたヴァンティン SSW の K. Christmas のギター弾き語りライブ。全 18 曲。約 40 年の隔たりで聴く K. Christmas の唄はアメリカのヴァンティン SSW 達、例



えば Michael Murphey や John Prine のようなヴェテランSSW のギター弾き語りライブを聴く感触。2012 作。BECN)

- \*JAMES GRANT: Strange Flowers C  
(Scott Walker や John Martin を想わずソウルフルかつミステリアスなヴォーカルは静かに闇が迫るように圧倒的な Great な SSW アルバム。w. Karen Matheson, Donald Shaw, James MacKintosh, etc. 2009 作。Vertical)
- \*DUNCAN McCRONE: Colourblind B  
(70 年代からスコットランドのフォーク・シーンで活動してきたヴェテランSSW、D. McCrone のヨ。D. McCrone の本作は、総じて穏やかだが、ストーリーテラ風フォーク・シンガー・スタイルで、内省的なテクニシャンが感じられる唄とリテンションスタイルのブリティッシュ・フォークの香りのする牧歌的で郷愁をそそる唄が混在し、どこか懐かしい気分させられる。w. Ray Laidlow, Steve Lawrence, Chris Stout, Finlay Macdonald, etc. 2012 作。Circular)
- \*EDDIE MARTIN: Folk & Blues a  
(「アメリカ」で取り上げたい渾身のブルース・ハープ {ブルース・ハープの妙技も素晴らしい} を吹き、ギター&ホトトギス・ギターの弾き語りブルース・アルバム。イギリスの妖精物語“Kind Lady Moon” {男が悪魔にさらわれる物語} さえ、Eddie の手にかかるるとゴテゴテのブルースに変幻する。ここまでブルースを自分のものとし、操れるブルース・シンガーはそうはいない。J. J. Cale や Eric Clapton のファンにお薦め。2010 作。Blue Blood)
- \*LAURA MARLING: A Creature I Don't Know B  
(本作は昨年 9 月に発売された同名タイトルのアルバムに 16トラック収録ライブ CD “Live From Yorkminster” をセットにした 2 枚組限定盤。Laura の音楽性はフォーク、カントリー、ロック、ジャズ等様々な音楽性が散りばめられ、多彩だが、弾き語りを基本にしていて、ソングライティングや感性の部分で、Joni Mitchell の影響が感じられ、加えて Leonard Cohen や Neil Young を想起させる部分もあつたりで中々魅力的。プロデュースは Glyn Johns の息子の Ethan Johns。2012 作。Virgin)
- \*ELEANOR McEVROY: Alone B  
(アイルランドの SSW の E. McEvoy の 9 枚目の本作は、アコースティック・ギター、或いはピアノ、或いはエレキギター、或いはベースギターを一曲一曲持ち替え、弾き語りであつたもの。タイトル通りの Eleanor 独りぼっちの世界の唄ばかり。2011 作。Moscodisc)
- \*JOHN SPILLANE: A Rock To Cling To C  
(欧米の SSW の中でも屈指の SSW の John Spillane の唄が始まるや、いつも John Spillane 一色。いつものことながら、うたい方は知性的で、一見穏やかで静かだが、発せられたうたそのものは熱く、言葉の力、詩の力を思い知らされる。天下一品。w. Pauline Scanlon, Donogh Hennessy, Brendan O' Sullivan, etc. 2011 作。EMI)
- \*CANDICE NIGHTS: Reflections A  
(Ritchie Blackmore の奥さんの Candice の優麗なヨ。すべての人が夢の中。2011 作。Minstrel Hall Music)
- \*FREDDIE WHITE: Close To You B  
(一枚発見。1991 年作。EMI)
- \*EMMA TRICCA: Gypsies And Red Chairs a  
(イタリア人女性シンガーによる夢想的ブリティッシュ・フォーク。

- Suffron Summerfield, Davey Graham 推薦。2001 作。Fairylands)
- \*MASTER OF CRAFTSMEN C  
 (一枚発見。Bert Jansch, Simon Nicol, Vikki Clayton, Dave Pegg, Dave Mattacks, Chris Leslie, G. Giltrap, etc. 99 作。Terra Nova)
- \*GREGSON & COLLISTER: Love Is A Strange Hotel ¥2718  
 (国内盤。1991 作。キング)
- \*REDLANDS PALOMINO COMPANY: Don't Fade A  
 (全国のカントリー・ロック・ファンに絶対のお薦め。紅一点のシンガー、Hannah Elton-Wall を擁する彼ら[もう一人のヴォーカルの Alex Elton-Wall とほぼ交互にリード・ヴォーカルを取り、ハーモニーする]のカントリー・ロックは、Kennedys くらい 70 年代米国西海岸カントリー・ロックの夢見心地な旨みをたっぷり持った胸キュンのカントリー・ロック。2011 作。Clubhouse)
- \*GERRY O' BEIRNE & ROSIE SHIPLAY  
 :Yesterday I Saw The Earth Beautiful B  
 (元 Patrick Street で SSW で名ギタ奏者の Gerry O' Beirne の本作は Rosie Shiplay なる無名の女性フォーク奏者 Rosie とのデュオ・アルバム。特徴的な感受性に富む G. O' Beirne の唄とギターは個人的に思い入れがあるが、本作でも彼らしい美しく細やかなギター演奏による心痺れる唄に惹き込まれる。2010 作。Shipwhistle)
- \*CAVIL: Mares' Tails B  
 (何とものどかな幸せ気分になれる唄たちだ。ヴォーカルの雰囲気が一見、Nick Drake 風だが、Nick のような神経質的な面は皆無。ジャケットの写真ではないが、麦畑に心地よく吹く風のような唄がギターやピアノやゲロッケンスピールなどの夢のような音色に包まれてほわほわと流れる。こんな至福な唄の世界は久しぶり。申し訳ないが、コメント書くのを止めてぼーっと聴いていたくなった。2010 作。Folkwit)
- \*CIARAN DORRIS: Home B  
 (C. Dorris はベルファスト出身で現在スコットランドでケルト音楽ラジオの人気キャスターを務める SSW。Ciaran の唄はとても人なつっこい。アイルランドとスコットランドの二つの故郷を想う気持ちが綴られた Ciaran の唄は健やかで晴れやで、そして感傷的。アイルランドの叙情派 SSW の Ciaran Goss に似てるだろうか? w. Shona Mooney, Calum Stewart, Stuart Duncan, Gillian Duncan, Mary Kathleen Burke 他。2010 作。Greentrax)
- \*KATH READE: Passionate Nature B  
 (Kath Reade は Jez Lowe が主宰する Songwriter Cup の元保持者で、ランカシャー地方では名の知れたヴィンテージ女性フォーク・シンガー。本作がデビュー作。Kath の唄は土地に根ざしたフォーク。と言ってもその土地の伝統歌をうたうのではなく、Kath 自身が土地の伝承や土地の人々の営みを自分の言葉でうたったもの。音楽性はむしろ 60 年代~70 年代のブリティッシュ・フォーク/SSW っぽい。2010 作。Splid)
- \*DEMOLITION SKY: Demolition Sky B  
 (Richard Durrant 主宰の Airport Club で 2001 年に出会い、デュオで活動する Alistair Mackie と Mark Collyer の二人組のデビュー作。二人ともがアコースティック・ギターを快く弾き、二人がハモる唄は清々しく美しい。イングランドの美しい風景を描写した唄など往年の爽やかでミラクル・ムードのブリティッシュ・フォークをホフツさせもする。Produced by Richard

- Durrant, 2009 作。LongMan)
- \*DAVID ROTHERAY: The Life Of Birds A  
 (Beautiful South の創設メンバーのソロ名義のアルバムで、曲目は David の自作曲或いは David と本アルバムでヴォーカルを取るシンガーとの共作曲なのだが、ヴォーカルを取るのは全てゲストのシンガー。そのシンガーは Eliza Carthy {2 曲}, Bella Hardy {3 曲}, Jim Causley {3 曲}, Kathryn Williams {1 曲}, Eleanor McEvoy {1 曲}, Alasdair Roberts {1 曲}, Julie Murphy {1 曲} 等。タイトルが示すように鳥の唄が中心だが、それだけでなく一曲一曲の唄がしっかりと、心に残る唄ばかり。2010 作。Proper)
- \*AL STEWART WITH DAVE NACHMANOFF: Uncorked B  
 (A. Stewart が古くからの音楽仲間でギター奏者の D. Nachmanoff と 2009 年に行った米国ツアーでのライブ。Al Stewart は今が最も旬かも。全 13 曲。2010 作。Wallaby Trails)
- \*MEIC STEVENS: Love Songs B  
 (ウェールズの Bob Dylan と言われた Meic が 18 歳だった 1959 年から 2009 年の間に作られた英語の「ラブ・ソング」集。全 13 曲。大半が未発表曲。いやはや初心回帰と言うか、Meic の唄は唄に誠実で優しい。本作はその昔、Bob Dylan に紹介してくれたという Fiona Fleming という女性に捧げられてる。2010 作。Sain)
- \*MICHAEL WESTON KING C  
 : I Didn't Raise My Boy To Be A Soldier  
 (Bob Dylan 作の "I Pity The Poor Immigrant" と "Simple Songs Of Freedom" や Phil Ochs 作の "Cops Of The World" と "Is There Anybody Here?" や Paul Simon 作の "Homeward Bound" 等全 12 曲。2010 作。Valve)
- \*LIZZIE NUNNERY: Company Of Ghosts A  
 (2008 年 BBCラジオの "Best Newcomer" 賞優勝の若き女性 SSW のファーストアルバム。Lizzie の唄は独特で、夢見る少女のような遊び心があって、何とも愛らしく聴き手の心を弾ませる 2010 作。Fellside)
- \*JENNA: Brother C  
 (21 歳の女性 SSW の Jenna の二枚目。21 歳の娘らしい恋や失恋のほか見聞きし、体験したことを多感な感性でスケッチした青春物語が、ある時はギターの強いビートの利いた曲調で、ある時はピアノをフィーチャーした気持ちよく流れるような曲調で、ある時はタイトなフォーク・ロック調で自在に空を舞うようにうたう。若き、魅力溢れる女性 SSW だ。2009 作。Hands On Music)
- \*ELBOW JANE: 3 Side Island B  
 (リパブルの風景や人の心は変わったが、希望と栄光は生きていると うたう男性 5 人組。5 人の内 3 人がヴォーカルを取るが、それぞれのヴォーカルが思索的で、アコースティックな音楽は穏やかで滋味溢れるもの。ヴォーカルとハーモニから生まれる柔らかな緊張感は見事で、むしろ SSW アルバムとして質の高さを見せている。ブリッッシュ・フォークとして音楽の質が高い。2009 作。Fellside)
- \*LUKA BLOOM: Riverside ¥1880  
 (w. Liam O' Maonlai, Eileen Ivers, Conor Byrne, etc. 90 作。

Reprise)

- \*LUKA BLOOM: The Barry Moore Years B  
(Barry Moore が Luka Bloom と名前変える前のフィンガー・ピッキング・ギターの美しい弾き語り時代に発表した“Treaty Stone”{78 作}, “In Groningen”{80 年}, “No Heroes”{82 年}の初期3枚のアルバムからの15曲入編集 CD。70年代ブリティッシュ・フォークの芳香薫る Barry Moore 時代の CD だ。2001 作。Luka Bloom)
- \*KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS: Shadows & Half Light B  
(2010 年 BBC の“Horizon Award”入賞の Katriona {ヴォーカル、フィドル} & Jamie {ヴォーカル、ギター} の若き男女デュオ。作詞作曲は Jamie が主でヴォーカルも Jamie が主にリードを取り、Katriona はハーモニー役。Jamie の理知的で思索的で、英国的陰影に富むヴォーカルと Katriona の涼やかなヴォーカルが魅力。理想のブリティッシュ・フォーク。2008 作。Gilmore Roberts)
- \*MIKE SILVER: How Many Rivers A  
(英国の叙情派 SSW と言えば Ralph McTell に Johnny Copein そして Mike Silver。Mike の英国的叙情性豊か唄は最高潮。w. J. Copein, R. McTell, Jo Partridge, Martyn Wyndham-Read, Phil Beer, Julie Silver, Roger Nichols, Mick Dolan, etc. 2008 作。Faymus)
- \*JACK McNEILL & CHARLIE HEYS  
: Light Up All The Beacons B  
(Jack & Charlie のフレッシュなデュオ作。2008 作。Fellside)
- \*CRUACHAN: Tuatha Na Gael C  
(アイルランドのフォーク・ロック・バンドの95年作に97年録音の3曲のボーナス曲を加えた再発盤。全12曲入。彼らの男女のヴォーカルを含め、夢想性と魔性を帯びたアイルランドのフォーク・ロックの醍醐味は物凄い。リアン・ハインズやホイッスルや小鳥の囀り等が彼らのエレクトリックなフォーク・ロックに+αの魅力注入了している。ジャケットもブックレットも何から何まで、ケルティックで神秘的。95/97 作。ランタ Karmageddon Media)
- \*GINA LE FAUX: In My Life C  
(ほぼ Martin Simpson {トブロー、テレキャスター} と Andy Cutting {メロディオン} が全面バックアップする良質の女性 SSW アルバム。Gina のヴォーカルは Iain Matthews のような高音が伸びる男性 SSW のような声質とヴォーカルスタイルで、M. Simpson の味わいのあるトブローの伴奏で、心象風景や心模様をゆったりと唄にしたという感じで、一曲一曲が唄のスケッチのよう。2009 作。Le Faux Music)
- \*SAM LEWIS: Everything You Are C  
(Sam はある種 J. J. Cale のような、何とも夢うつつな魅力的な SSW。ロック・バンドのギタリストで Neil Young のファンという Sam 自身が奏でるギターやラップ・スティール・ギターは感覚的で、緩くも星の輝きのような音色で目覚めの悪い唄にぴったしはまっている。このうとうとした感触は凄く魅力。一度聴くと病みつき。Bert Jansch とツアーをしたりもしているようだが、どんなコンサートなんだろう? 2007 作。Rusk)
- \*THE SAW DOCTORS: Live At The Melody Tent B  
(アイルランドのフォーク・ロック・バンドの雄、Saw Doctors のライブ・アルバム。録音は2008年の夏。Runrig クラスの魂揺さぶるフォーク・ロックだ。凄い! 2008 作。Shamtown)

- \*THE SAW DOCTORS: All The Way From Tuam (1992 作。Shamtown) B
- \*THE SAW DOCTORS: Villains? (2001。Shamtown) B
- \*ROARING JELLY: Golden Gates / MICHAEL HEBBERT  
: The Rampin' Cat a  
(イギリスのラグタイムやスキップ、ジプシー音楽、古いジャズやポピュラー音楽そしてセピア色の愉快的な唄のコミックバンド Roaring Jelly {Derek Pearce, Clive Harvey, Mick Hennessey} の76年のデビュー作とパブ・ミュージシャンでコンサーティナ奏者の Michael Hebbert の76年のデビュー作の"2 on 1"。全22トラック。76/2008 作。Free Reed)
- \*DAVID LEWIS: Ghost Rhymes A  
(Andwella の D. Lewis ではないもう一人の素晴らしい SSW の D. Lewis の2007 作。本作も John Wesley Harding が全曲でまるでデュオのように付合っている。この David の英国人的感性が光る弱々しい感触が何とも言えず魅力。D. Lewis の陰影に富む唄そして細やかな音作りは本当に魅力的。男性 SSW だが SSWファンは皆胸キュン保証。2007 作。WOW)
- \*JIMME O' NEILL: Real C  
(スコティッシュバンド "Silencers" のリーダーでヴォーカルの J. O' Neill のギター弾き語りを中心にしたファースト・ソ。2008 作。Keltia Musique)
- \*CHRIS WHILE: Look At Me Now A  
(ヴェテラン女性 SSW の Chris While の1994 年のアルバム。1994 作。Fat Cat)
- \*CHRIS WHILE: Rosella Red A  
(ヴェテラン女性 SSW の Chris While の2007 年のアルバム。w. Kellie While, Gerry Conway, Joe Broughton, Neil Fairclough, etc. 2007 作。Fat Cat)
- \*MARTYN JOSEPH: Full Colour Black And White A  
(5 枚目。帰郷の喜びを全身で唄った軽快な1曲目 "Going Home" の門をくぐると、まるで自問自答するような Martyn の詩情溢れる唄の世界。録音は Michael Weston King の "God Shaped Hole" と同じ Martyn の家の屋根裏部屋スタジオ。SSW アルバムの原点。96 作。Grapevine)
- \*MARTYN JOSEPH: Far From Home A  
(闇も中から響いてくるようなアコースティック・ギターのクリアな響きと共に Martyn の純な唄達が心に染みわたる絶句のアルバム。99 作。Pipe)
- \*STEVE ASHLEY: Time And Tide C  
(S. Ashley の本作は英国的陰影に富む70年代ブリティッシュ・フォーク回帰の名品。w. Chris Leslie, Simon Nicol, Dave Pegg, Robin Williamson, Paul Manning, etc. 2007 作。Topic)
- \*XAVIER BARO: Flors De Joglaria ¥1500  
(スペインのフォーク・シンガー。カタルニャのフォーク・シンガーの X. Baro の本作は70年代ブリティッシュ・フォーク・スタイルのフォーク/フォーク・ロック。Xavier は夢の旅人のイメージでのトルバドールのでエレキ&アコースティック・ギター、ベース、オルガン、ピアノによる甘味ある優美なフォーク/フォーク・ロック。教会風オルガンや甘みあるギター等が70年代風ブリティッシュ・フォークの夢見心地さを引き立たせ、Xavier の唄は仮想の夢のサントの中でゆったり舞う。スペインのシンガーによる耽美的ブリティッシュ・フォーク。2006 作。Quadrant)
- \*INCREDIBLE STRING BAND: Nebulous Nearnesses B

(Mike Heron, Clive Palmer, Lawson Dando, Fluff, Gavin Dickie, Steini Gudmundsson というラインナップの 2005 年版 ISB。余計な贅肉が落ちて牧歌的で清々しくて微笑ましいブリティッシュ・フォーク。どことなく英国版 Woodstock Mountain Revue 的音楽。スペイン Quadrant)

- \*BERT JANSCH: Nicola A  
(2 曲ボーナス付。詳細解説付。67/2002 作。Sanctuary)
- \*BERT JANSCH: Birthday Blues A  
(2 曲ボーナス付。詳細解説付。69/2001 作。Sanctuary)
- \*BERT JANSCH: The Ornament Tree (90 作。Sanctuary) A
- \*BERT JANSCH: From The Outside A  
(紛失曲 "I Sure Wanna Know" を収録し、新たに CD 再発。93/2001 作。Sanctuary)
- \*BERT JANSCH: Live At The 12 Bar (96 作。Sanctuary) A
- \*BERT JANSCH: Crimson Moon (2000 作。Sanctuary) A
- \*BERT JANSCH: The River Sessions B  
(74 年 11 月グラスゴーの City Hall でのライブ。74/2004 作。River)
- \*BERT JANSCH: Dazzling Stranger A  
(アンソロジー -20 曲入編集 2 枚組。2000 作。Sanctuary)
- \*BERT JANSCH: Black Swan (2006 作。Drag City) A
- \*JOAN ARMATRADING: Into The Blues B  
(全て自作曲だが、ブルース色濃厚な Joan の本作はブルースマンのブルース魂が乗り移ったスピリットの高いブルース。活きの良いブルースが快感。2007 作。Hypertension)
- \*ANDY WHITTLE: Old Fashioned Dream B  
(ブリティッシュ・フォークの優等生! と言いたくなるノッティンガム出身の若干 24 歳の SSW の瑞々しいデビュー作。理想の SSW アルバム。2005 作。Folkwit)
- \*SCOTT MATTHEWS: Passing Stranger B  
(驚きの個性的な SSW だ。ピュアさと泥臭さとを併せ持ったというか、全体として Nick Drake 的ムードを漂わせていて、自己陶醉型なのだが、スライド・ギター等ギターの名手でもあって、泥臭いブルースの世界も覗かせていて奥が深い。2006 作。San Remo)
- \*PLAINSONG: Dark Side Of The Room (92 作。トイライン) ¥1980
- \*ROGER MORRIS: Light Up The Road ¥900
- \*ROGER MORRIS: Beholder ¥900  
(Roger Morris "First Album" のあの R. Morris の 2001 年作の 2 枚目と 2004 年作の 3 枚目)
- \*DAVID HUGHES: I Can Explain B  
(Jacqui McShee と Gerry Conway がほぼ全曲でハッキングの本作は彼独特な自己陶酔的暗鬱さと 70 年代風ブリティッシュ・フォークの陰影とが交差する中で、いつもながらの彼独特な世界が生み出されている。w. Bert Jansch, Helen Watson, Chris While, Julie Matthews, Martin Brunnsden。2004 作。Folkcorp)
- \*JUDY DINNING: Fine Times D  
(ノーサンバーランド出身の Judy が故郷を唄ったもの。2003 作。MWM)
- \*LEE COLLINSON: Breathless a  
(ブリティッシュ・フォーク・ギタリストとしてかつ英国的センスが光る味のあるシンガ

-として知る人ぞ知る Lee の 6 年振りアルバム。Martin Simpson の繊細&鮮烈ギターに独自のスタイルを加味したアコースティック・ギターの輝きとコクは、流石。釘づけ…。2000 作。Chama)

- \*GRAHAM LYLE: Something Beautiful Remains A  
(ブリティッシュ・フォークの数々の名作を生み出した Gallagher&Lyle の Graham Lyle のワ。ほろ酔い気分。2003 作。トイ Hypertension)
- \*JOHN LEO CARTER&CO.: Candyloss Girl C  
(アイルランドの SSW だが、感性鋭いアコースティック・ギターの瞑想的響きと John の夢想的ヴォーカルは Nick Drake を想起させる。w. John Spillane, Mairead Kelly {ハープ、ヴォーカル}, Edel Sullivan {フイドル、ヴォイラ}, Thaddeus Buckley {フズキ}, etc. 2003 作。Circle)
- \*JASON O' DRISCOLL: Dharma C  
(Jason はアイルランドのフォークの SSW のようだが、たわいもない唄を素直に心優しくメロディアスに唄う。その素直さと浮遊感ある緩やかな唄が心地よい。2003 作。Jason O' Driscoll)
- \*MAGGIE HOLLAND: Circle Of Light B  
(フォーク・シンガーの Maggie の唄ときっちり向き合った存在感あるフォークアルバム。全 15 曲。2003 作。Irregular)
- \*THE VARAFLAMES: Throwing Shapes B  
(Nab Noakes, Rod Clements, Fraser Speirs, Pick Withers にバックアップ・ヴォーカルで Gill Bowman&Karina Polwart が加わった Varablames のおやじ歓ぶ懐古趣味ロック。2000 作。Neon)
- \*RAB NOAKES: Rarities + Demos Vol. 1 C  
(マルチメディア機能付 CD。70 年作のデビュー作前の 69 年に家庭用レコーダーで録音していたテープからの全 15 曲。1 曲 1 曲が磨かれる前の原石の輝き。CD-ROM は Rab の長いおしゃべり弾き語りビデオにフォト・ギャラリーほか。2002 作。Neon)
- \*LINDISFARNE: Promenade B  
(何とも温かい心地になれる温かで懐かしい Lindisfarne の New。2002 作。Park)
- \*LINDISFARNE: The Cropredy Concert A  
(94 年の Cropredy のライブ。97 作。Mooncrest)
- \*LINDISFARNE: Buried Treasures Vol. 3 A  
(未発表曲集第 3 弾。17 曲 + α。2000 作。Siren)
- \*ROD CLEMENTS: One Track Mind B  
(3 曲ボーナス付再発。Lindisfarne の R. Clements が自身のルーツの音楽フォークやブルースへの回帰そして回想したもの。w. Ray Laidow, Steve Cunningham。94/2001 作。Siren)
- \*SONNY CONDELL: Backwater Awhile A  
(触ると壊れそうな優しい唄と伴奏と唄の世界。S. Condell は正に夢織り人。自分の居心地のいい唄世界を創造し、オジジナルな夢音楽を生み出している。2001 作。Backwater)
- \*KEVIN DOHERTY: Strange Weather A  
(ウッドストック録音。w. Gerry O' Connor, Levon Helm, Amy Helm, Rick Danko, Aaron Hurwitz, Mike J. Dunn, Randy Ciarlante, etc. 99 作。
- \*FAYE ROCHELLE: Reflections B

(Faye 嬢の唄は一種独特。不思議な浮遊感がある。裏返るヴォーカルによっぴり東方風味のエキゾチックなサウンド...。女性的な感性がきらめく唄。w. Nigel Eaton, Kuljit Bhamra, Steafan Hannigan, etc.  
2000 作。Offspring)

- \*ANDREW WHITE: Pray For Rain B  
(スコットランド出身のSSWで屈指のブリティッシュ・フォーク・ギタリストの心飛ぶデビュー作。2001 作。Vertical)

### [DVD+CD/FAIRPORT]

※NTSC all regions 国内製 DVD プレーヤーで再生可能

- \*ACCOMPANYING DAVE SWARBRICK C  
(DVD+CDセット。DVDは2008年、デンマークでのDave Swarbrick & Lars Kjaedegaard {ギター、ベース}の12トラック収録ライブとLars Kjaedegaardが進行役となって制作されたDave Swarbrickのドキュメンタリー・フィルム。Swarb & Martin Carthy, Fairport, Whippersnapperそしてライブ等の映像の合間にSwarbの音楽人生を振り返る内容。海パン姿のSwarb & Martin Carthyのおかしな写真なども。CDはDVD収録のライブからの7トラック。Swarbの演奏はいつになく心に響く。2011年。Gonzo)

### [DVD&CD/FAIRPORT]

※NTSC all regions 国内製 DVD プレーヤーで再生可能

- \*RICHARD THOMPSON: Live From Austin Tx (DVD) B  
\*RICHARD THOMPSON: Live From Austin Tx (CD) A  
(2001年7月、Austin City Limitsでのライブ。メンバーはR. ThompsonとDanny Thompson {ベース}とMichael Jerome {ドラムス}。1曲目から8曲目までアコースティック・ギターで、9曲目から14曲目までエレキ・ギターそして15曲目がアコースティック・ギター16曲目がエレキ・ギター {最後の16曲目はDVDのみに収録}の演奏なのだが、R. T. は真剣なギター・プレイとヴォーカルを披露し、終始釘付け。2005 作。New West)

### [CD/FAIRPORT&ALBION FAMILY]

- \*FAIRPORT CONVENTION: 50:50@50 C  
(Fairport Conventionの50周年記念・通算28枚目スタジオ録音アルバム。メンバーはSimon Nicol, Dave Pegg, Chris Leslie, Ric Sanders, Gerry Conway。ゲスト・シンガー: Robert Plant, Jacqui McShee。2017 作。在庫僅か。Matty Grooves)
- \*DAVE SWARBRICK: It Suits Me Well  
- The Transatlantic Recordings: 1976-1983 ¥2790  
(“Swarbrick” {1976年}, “Swarbrick 2” {1977年}, “Smiddyburn” {1981年}, “Flittin” {1983年}の”2 in 4”の二枚組CD。全46トラック。2016 作。Cherry Tree)
- \*FAIRPORT WITH SWARB: Scrum-Half Bricking ¥2790  
(副題“Fairport With Swarb At Derby”。今から思えば懐かしいD. Swarbrick 救援1000枚限定チャリティーCD。本作は2003年に行ったイングランド・ツアーの18番目のコンサートの会場、Derby



のアセンブリー・ルームに特別に Dave Swarbrick を招いて、収録した超レア・アルバム。Fairport の中心は Dave Swarbrick。フィドルはよく唄っているが、細い音色は悲しくもある。Swarbrick の十八番“Rosie”は感涙なしには聴けません。全9曲。ご冥福を祈ります。2003 作。Front Row)

- \*DUNCAN WOOD & GUESTS:Swarbricks B  
(本作のアイデアは Cathal McConnell と Duncan Wood が Swarb と Edinburgh Folk Club で共演したことに始まる。全曲 Swarb 作曲の曲で全 17 トラック収録。マンドリン、マンドーラ、フィドル、ヴァイオリン、バウロン等を演奏する Duncan は、Swarb の曲は完成されていて、簡単には編曲不可能と判断し、じゃあセッションしてで作ろう！ということになって、Cathal McConnell {フルート、ホイッスル}、Martin McDonald {ギター、ボウズ}、Gavin Sutherland {ギター}、Maureen Hunter {ハープ} の仲間とフォーク・クラブでセッションするように作ってしまったのが本作。これが功を奏して、まるで Boys Of The Lough のようなスコティッシュな Swarbrick Music が完成。2013 作。Beaechwood)
- \*ALISTAIR HULETT & DAVE SWARBRICK C  
: Saturady Johnny & Jimmy The Bat (1996 作。RedRatter)
- \*ALISTAIR HULETT & DAVE SWARBRICK C  
: The Cold Grey Light Of Dawn (1998 作。Musikfolk)
- \*SANDY DENNY:The Best Of Sandy Denny ¥1500  
- The Millennium Collection  
(地震後の棚整理で発見！カナダ A&M から発売された Sandy Denny のベスト盤。全 10 曲。2002 作。カナダ A&M)
- \*ROSIE CARSON & KEVIN DEMPSEY:Nightbirds B  
(Dando Shaft、Whippersnapper の K. Dempsey とアイリッシュ系フォーク・シンガーでフィドル奏者の世代違いの男女のデュオ。特に Whippersnapper 時代から K. Dempsey の羽毛の感触のブリティッシュ・フォークが好物だったが、本作はその期待を裏切らぬもの。Kevin は Rosie という花を得て、むしろ Kevin の美学を深めた独自のブリティッシュ・フォークを開花させていて、もううっとり。小春日和な日にのほほーんと聴いていたくなる。2014 年◎の 2016 作。Haystack)
- \*ASHLEY HUTCHINGS BIG BEAT COMBO B  
: Twangin' 'n' A-traddin' Revisited  
(1994 年作の Big Beat Combo=Ashley Hutchings, Richard Thompson, Simon Nicol, Maartin Allcock, Simon Care, Phil Beer 他=の青春時代のホップ&ロック・アルバム“Twangin' 'n' A-traddin'”に三曲{内二曲は 60 年代風ガールズ・トリオの“Velveteens”がヴォーカルを加えた“Revisited”版。全 15 トラック。三つ折り紙ジャケット仕様。十代の頃の写真。1994/2015 作。Talking Elephant)
- \*ALBION CHRISTMAS BAND:One For The Road B  
(2013 年、Albion Christmas Band {Ashley Hutchings, Simon Nicol, Kellie While, Simon Care} が結成 15 周年を記念して行ったツアーの中から、その年の 12/12 にロンドンの Kings Place でのライブを収録した新作。何と 19 トラック！最近 Ashley Hutchings がらみのまともな新

録アルバムのリリースがないことから、「Ashley は引退?」と半ば心配していたが、達者のヴォーカルとバンド・リーダーとしての雰囲気あるしゃべりを聴き、一安心。本作は一に Kellie While の美しいシンキング、二に Simon Nicol の穏やかなシンキングが良い。クリスマスの Happy な曲以上に清く美しい曲が多い英国的に美しいクリスマス音楽だ。2014 作。

Rooksmere)

- \*ALBION DANCE BAND: I Got New Shoes Revisited A  
(Albion Dance Band [Ashley Hutchings, Phil Beer, Simon Care, Trevor Foster, John Shepherd そしてゲストの Polly Bolton] の 1988 年作が CD 再発。ボーナス・トラック3トラック [2 曲がライヴで 1 曲がスタジオ録音] 付の全 13 トラック。この時代の Ashley 関連のアルバムはどれも勢いがある。久しぶりに本作を聴いたが、スシと重くて跳ねるドラムス、ノイズなエレキギター、中世風味等など渾然一体としたる英国風フォーク・ロックはパワフルでかつジャンプ力がある。皆さん、乗ってますねえ。1988/2014 作。Talking Elephant)
- \*SIMON NICOL: Consonant Please Carol A  
(Simon Nicol の 1992 年作のセカンド・ソロ・アルバム。"Rosemary's Sister" の作者 Huw Williams 作の曲を 4 曲を含む本作は、英国的叙情はさらに深まっていて、しんみりと心に響く。名作。w. Martin Allcock, Gerry Conway, Danny Thompson, Maggie Reilly, Beryl Marriott, Grant Bowden, Sherryl & Sheila Parker, Pete Zorn。1992/2014 作。Talking Elephant)
- \*CHRISTMAS IN ALBION "A Festive Compilation" A  
(Albion Band, Albion Christmas Band, St Agnes Fountain, Phil Beer, Fairport Convention, Chris & John Leslie, Amaging Blondel, Andy Steele の「フォーク・ロック」なクリスマス・ソング集。全 20 トラック。2012 作。Talking Elephant)
- \*FAIRPORT CONVENTION: And The Band Played On B  
(2003 年 2 月 22 日の Marlowe Theatre のコンサート・ライヴ音源からの 20 トラック [26 曲] 収録の 2 枚組。メンバーは、S. Nicol, D. Pegg, Rick Sanders, Chris Leslie, Gerry Conway, Andy Guttridge。2012 作。Secret)
- \*SHIRLEY & DOLLY COLLINS: Snapshots A  
(1970 年代後半のライヴと 60 年代録音のデモ音源数曲の計 22 曲入。Shirley のシンキングと Dolly の牧歌的なカヴァーの音色はイングランドのトラッドの牧歌的で故郷のような温もりを保持。2006 作。Fledg'ling)
- \*FAIRPORT CONVENTION: Before The Moon D  
(1974 年の Ebbets Field でのライヴ。二枚組。20 トラック。2002 作。Pilot)
- \*ANNE DE BRETAGNE C  
(ハード・カバー装丁の 2 枚組。副題 "Le Rock Opera d' Alan Simon"。全曲 Alan Simon 作詩作曲の中世ブルターニュの歴史絵巻物語。参加ミュージシャンが豪華。Cecile Corbel, Fairport Convention, Chris Leslie, Tri Yann, Didier Squiban, Pat O' May 等など。全 30 曲。色鮮やかに描かれた P48 の歴史絵巻ブックレット付。2009 作。Babaika)
- \*THE GATHERING BRITANNIA: The Bridge Between a  
(Gathering Britannia なるバンドのラインナップは何と、Ray Jackson, Jerry Donahue, Doug Morter, Rich Kemp, Clive Bunker、そして

Jerry Donahue の娘でシガーの Kristina Donahue という Fairport, Fotheringay, Albion Band, Steeleye Span, Jethro Tull 出身者の夢のバンド。おじさん達の中で、Kristina の優美なヴォーカルが花を添えている。Produced by Jerry Donahue, Ray Jackson and Doug Morter。2011 作。Itsaboutmusic.com)

\*FAIRPORT CONVENTION: More Things We Did On Our Holiday B  
(2 枚組セット。ディスク1 は 1986 年の Cropredy Festival のライブで全 12 曲 {内 4 曲は Iain Matthews がリード・ヴォーカル。その I. Matthews に S. Nicol, D. Pegg, D. Mattacks, M. Allcock, R. Sanders, R. Thompson, Jerry Donahue, Cathy Lesurf, Clive Gregson, Christine Collister}。ディスク2 は 1987 年の Cropredy Festival のライブで全 13 曲 {S. Nicol, D. Pegg, D. Mattacks, M. Allcock, R. Sanders, R. Thompson, Ralph McTell, June Tabor, D. Swarbrick, Ian Anderson, Cathy Lesurf}。Produced by Dave Pegg。Secret)

\*ALBION BAND

: Another Christmas Present – Live In Concert A  
(Cathy Lesurf, Ashley Hutchings, John Tams, Phil Beer, Martin Bell, Trevor Foster のラインナップで 1986 年に行ったクリスマス・ツアーの未発表ライブ盤。全 19トラック。2010 作。Talking Elephant)

\*ALBION BAND: Vintage Vol. 2 A  
(Albion Band の 1972 年～80 年間の未発表音源を集めた編集 CD。メンバーは Ashley Hutchings, Shirley Collins, Martin Carty, Dave Mattacks, Simon Nicol, Sue Harris, John Kirkpatrick, John Tams, Graham Taylor 等無敵のメンバー。70 年代 Albion/Albion Dance Band の集大成的音楽。全 15トラック。2010 作。Talking Elephant)

\*ASHLEY HUTCHINGS&RAINBOW CHASERS: A Brilliant Light A  
(Ashley&Rainbow Chasers の 2004 年 12 月のライブ。16 曲入の 2 枚組。それぞれが魅力的なヴォーカルを披露し、ギター、フィドル、ヴァイオリン等のアコースティックな音色が美しい英国的叙情と気品溢れる唄と音楽が堪能できる心洗われるライブ。2005 作。Secret)

\*ASHLEY HUTCHINGS AND KEN NICOL: Copper, Russet And Gold C  
(Ashley の、Albion も Rainbow Chasers も離れての本作は長年の音楽仲間でもギター名手でシガーの K. Nicol との共演盤。K. Nicol はブリティッシュ・フォーク然とした美麗で巧みなアコースティック・ギターで、かつ時に格調高いエレキギターをかき鳴らし、英国情緒を豊かに演出し、Ashley と K. Nicol が毅然としたヴォーカルで Ashley&Ken 流英国情緒を堪能させる。ゲストで美声を震わす Abbie Lathe と Becky Mills が良き英国情緒の芳香を添えている。2010 作。Park)

\*ALBION BAND: Captured B  
(1990&91 年の Albion Band {A. Hutchings, Julie Matthews, Phil Beer, Simon Care, Trevor Foster} と 1992 年の Albion Band {S. Care と T. Foster が抜け、ギターの Keith Hinchliffe が加入} の音源からの編集盤で全 13トラック。2009 作。Talking Elephant)

\*ASHLEY HUTCHINGS & ERNESTO DE PASCALE

: My Land Is Your Land C  
(イングランド側は Ashley&Friends とイタリア側は Ernesto De Pascale&

Friends の共演アルバム。Ashley 側は、Rainbow Chasers のヴォーカルの Ruth Angell&Jo Hamilton の二人に Chris Leslie, Ken Nicol, PJ Wright, Lester Simpson, Marc Hutchinson 等強カラインナップで、イングランド情緒を湛えた潔いフォーク・ロック。2008 作。Esoteric)

\*KEITH DEWHURST & THE ALBION BAND

:Lark Rise To Candleford B

(Albion Band の 1980 年作。80/2008 作。Talking Elephant)

\*SWEEPS "A Joyful Celebration Of The Morris" B

(Albion Dance Band, Morris On Band, Grandson And Great Grandson Of Morris On, Chris Leslie, Tickled Pink, Albion Band, Cobbled Together の音源からの生え抜きもモリス曲が全 14 トラック。BGM で流してるだけでモリス祭り気分。2008 作。Talking Elephant)

\*ALBION MORRIS: Still Dancing After All These Years B

(Albion Morris は Ashley Hutchings のモリス・ダンス曲のロック的アプローチに影響を受けて 1972 年に結成されたダンス付グループ。本作は 2002 年の 30 周年記念にどこぞの屋根裏部屋で録音されたもの。メンバーは Shirley Collins {ここではナレーション役}, Graeme Taylor, Michael Gregory, Philip Picket, Tom Leary, John Watcham, Ian Culter, Jon Davie 等モリス界のツワモノを含むメンバー。2008 作。Talking Elephant)

\*DAVE PEGG&PJ WRIGHT: Galileo's Apology a

(Fairport の D. Pegg と Little Johnny England, Dylan Project の PJ とのデュオ・アルバムはオヤジ趣味の渋く気概があり、それでいて風通しの良い爽やかな SSW タイプ音楽。2007 作。Matty Grooves)

\*RICHARD THOMPSON BAND: Semi-Detached Mock Tudor D

(R. T. のオンライン・ショップのみで発売の自主製作 CD。R. T. に Teddy Thompson, Danny Thompson, Michael Jerome による R. T. Band の 1999 年 11 月の米国ツアー時の白熱ライブ。全 13 曲。2002 作。Beeswing)

\*RICHARD THOMPSON BAND: Ducknapped D

(R. T. のオンライン・ショップのみで発売の自主製作 CD。R. T. に Pete Zorn, Earl Harvin, Danny Thompson, Rory McFarlane による R. T. Band の 2003 年 3 月の英国ツアー時と米国カリフォルニアでのライブ。ゲスト: Christine Collister&Judith Owen。全 14 曲。2002 作。Beeswing)

\*RICHARD THOMPSON BAND: More Guitar D

(R. T. のオンライン・ショップのみで発売の自主製作 CD。R. T. に John Kirkpatrick, Clive Gregson, Christine Collister, Pat Donaldson, Kenny Arnoff による R. T. Band の 1988 年のライブ。全 12 曲。2003 作。Beeswing)

\*RICHARD THOMPSON BAND: Faithless D

(R. T. のオンライン・ショップのみで発売の自主製作 CD。R. T. に Clive Gregson, Christine Collister, Gerry Conway, Rory McFarlane による R. T. Band の 1985 年の白熱ライブ。2004 作。Beeswing)

\*THE WORKING PARTY: Live At The Mill ¥1000

(Working Party は Chris Leslie, Troy Donockley, Simon Mayor, Chris Parkinson, Martin Allcock によるスーパー"即席"バンド。"The Kid on the Mountain", "The Lark in the Morning", "Sigh Beag Sigh Mor", "The Mason Apron", "The Star of County Down" 等な

ど名曲ずらり。2006 作。TWPPCL)

- \*SANDY DENNY:Where The Time Goes ¥2190  
(1967 年収録の Strawbs との同曲のオリジナル・ヴァージョンをフィーチャーした 18 曲。本作自体は 1967 年 Saga というレーベルから発売された Sandy の最初のスタジオ録音音源からその時のアウトテイク 5 曲を含むもの。67/2005 作。Sanctuary)
- \*SANDY DENNY:The Original Sandy Denny ¥2190  
(“North Star...”の前の 67 年作。Trojan/Sanctuary)
- \*SANDY DENNY:Sandy a  
(72 年作“Sandy”に“Pass Of Arms”からの 2 曲を含むボーナス曲 5 曲を加えたリマスター盤。72/2005 作。Island)
- \*SANDY DENNY:Like An Old Fashioned Waltz a  
(73 年作“Like An Old Fashioned Waltz”に未発表音源から 4 曲のボーナス曲を加えたリマスター盤。73/2005 作。Island)
- \*SANDY DENNY:Rendezvous a  
(77 年作“Rendezvous”にプロモーション・シングル の B 面を含むボーナス曲 5 を加えたリマスター盤。77/2005 作。Island)
- \*JOHN&CHRIS LESLIE:Ship Of Time D  
(John&Chris Leslie 兄弟の 76 年製作のデュオ・アルバム。John&Chris がイングランド等のダンス曲と民謡を若い頃から愛していたのが牧歌的なトラッドの演唱からほんわかと伝わってくる。青春の日のトラッド。締め括りは“Adieu Sweet Lovely Nancy”。76 作。Kissing Spell)
- \*FAIRPORT CONVENTION:Off The Desk D  
(2 枚組。Ric Sanders 編集の 2004 年～2005 年のライヴ音源から全 22 曲。2006 作。Matty Grooves)
- \*FAIRPORT CONVENTION:Live Across The Centuries ¥1000  
(2 枚組 20トラック入編集盤。2000 年のオランダでのライヴ録音“Now Be Thankful”に“The Airing Cupboard Tapes 71-74”から 5トラック、“Who Knows”から 5トラック、“Acoustically Down Under”から 4トラック、“The Wood&The Wire”から 1トラックそして“Festival Cropredy 2002”から 4トラック。2008 作。Smith&Co)
- \*FAIRPORT CONVENTION  
:A Lasting Spirit The Collection ¥3280  
(Fairport の 3 枚組。ディスク 1 は希少曲を含む初期の音源と 97 年のクワレデーのライヴから初期のレパートリーを収録で 18 曲。ディスク 2 はスタジオ録音からの 15 曲。ディスク 3 は主に 97 年のクワレデーのライヴからで 14 曲。ライヴのラインナップは R. Thompson, D. Mattacks, Vikki Clayton, Jerry Donahue, D. Swarbrick, Rick Sanders, Chris Leslie, Dave Mattacks, Bruce Rowland, D. Pegg, S. Nicol と思われる。2005 作。Sanctuary)
- \*FAIRPORT CONVENTION:The Fairport Companion C  
(Fairport 関係音楽家の編集 CD。36トラック収録の 2 枚組。人脈図付。Ian Campbell Folk Group, Ethnic Shuffle Orchestra, The Uglys, Sandy Denny, The Pembroke Unique Ensemble, Al Jones, , Trader Horne, Steeleye Span, Stefan Grossman, Marc Ellington, Shelagh McDonald, Shirley Collins&The Albion Band, Spiryogyra, Lal&

- Mike Waterson, Albion Country Band, Ian Matthews, Etchingam Steam Band, Harvey Andrews&Graham Cooper, Albion Dance Band, Royston&Heather Wood, The Albion Band, Dave Swarbrick, Ashley Hutchings&Friends。2006 作。Castle)
- \*FAIRPORT CONVENTION:The Battle C  
(ドイツで The Battle というタイトルで発売された“The Five Season”と “Red&Gold”の特殊紙ジャケット2枚組 CD。2005 作。ドイツMembran Music)
- \*FAIRPORT CONVENTION:Fairport Convention A  
(4曲のボーナス付デジタル・リマスター。68/2003 作。Polydor)
- \*FAIRPORT CONVENTION:What We Did In Our Holiday A  
(3曲のボーナス付デジタル・リマスター。69/2003 作。Island)
- \*FAIRPORT CONVENTION  
:Heyday “The BBC Sessions 1968—69 A  
(8曲のボーナス付デジタル・リマスター。Island)
- \*FAIRPORT CONVENTION:“Babbacombe” Lee A  
(2曲のボーナス[BBC録音で内1曲は J. Donahue、残り1曲は S. Denny 参加]付デジタル・リマスター。71/2004 作。Island)
- \*FAIRPORT CONVENTION:Live Convention C  
(5曲のボーナス付デジタル・リマスター。74/2005 作。Island)
- \*FAIRPORT CONVENTION:Before The Moon C  
(2枚組。74年のテンパーでのライヴでメンバーは Sandy Denny, Trevor Lucas, D. Swarbrick, D. Mattacks, D. Pegg, Jerry Donahue。全20曲。P22のブックレット付。2002 作。Pilot)
- \*FAIRPORT CONVENTION:Rising For The Moon C  
(4曲のボーナス付デジタル・リマスター。75/2005 作。Island)
- \*FAIRPORT CONVENTION:House Full A  
(2曲のボーナス付デジタル・リマスター。86/2001 作。Island)
- \*FAIRPORT CONVENTION:Gladys' Leap A  
(3曲のボーナス付リマスター。ボーナスは82年のCropredyのライヴで、Trevor Lucas, D. Swarbrick, D. Pegg, J. Donahue, D. Mattacks, S. Nicolの最強の布陣。T. Lucasがヴォーカルの2曲の何と強力なこと。Fairport77周年感涙! Talking Elephant)
- \*FAIRPORT CONVENTION  
:What We Did In Our Holiday(69 作。Island) ¥1580
- \*FAIRPORT CONVENTION:Unhalfbricking(69 作。Island) ¥1580
- \*FAIRPORT CONVENTION:Full House(70 作。Hunnibal) ¥1580
- \*FAIRPORT CONVENTION:Angel Delight(71 作。Island) ¥1000
- \*FAIRPORT CONVENTION  
:The History Of Fairport Convention ¥1580  
(フェアポート初期のベスト盤。全18曲。フェアポートの人脈地図付。72 作。Island)
- \*FAIRPORT CONVENTION:Nine(73 作。Island) ¥1000
- \*FAIRPORT CONVENTION:In Real Time ¥1000  
(87年のCropredyでのライヴ。87 作。Island)
- \*FAIRPORT CONVENTION:Red&Gold ¥1580  
(88録音の“Red&Gold”に94年のCropredy Fesでの“Close To The Wind”を加えた再発 CD。HTD)

- \*FAIRPORT CONVENTION:The Five Seasons ¥1580  
(90 録音の“The Five Seasons に 94 年の Cropredy Fes での“Caught A Whisper”を加えた再発 CD。HTD)
- \*FAIRPORT CONVENTION:Who Knows Where The Time Goes?¥1000  
(S. Nicol, D. Pegg, D. Mattacks, R. Sanders に C. Leslie からフェアポートの 97 作。ゲスト:R. Thompson。97 作。Woodworm)
- \*FAIRPORT CONVENTION:Jewell In The Crown a  
(95 作。Green Linnet)
- \*FAIRPORT CONVENTION:The Wood&The Fire a  
(S. Nicol, C. Leslie, D. Pegg, R. Sanders, G. Conway から成る衰え知らずの Fairport の New。99 作。Woodworm)
- \*FAIRPORT CONVENTION:The Cropredy Box D  
(Cropredy の 30 周年ライヴ。3 枚組。98/2003 作。Sanctuary)
- \*FAIRPORT CONVENTION:XXXV a  
(2001 年収録の Fairport30 周年アルバムに 2002 年の 30 周年記念ツアーのライヴ音源から Simon Nicol がリード・ヴォーカルの“The Widow Of Westmorland’s Daughter”と Chris Leslie がリード・ヴォーカルの“Rosie”の 2 曲を加えて発売。全 16 曲。2001/2006 作。Talking Elephant)
- \*FAIRPORT CONVENTION:25th Anniversary Concert B  
(Fairport 結成 25 周年記念コンサート{1992 年の Cropredy Festival}の 2 枚組ライヴ盤。ゲスト:Robert Plant, Richard Thompson, Chris Leslie, Julianne Regan, Ralph McTell, Dave Swarbrick, Jerry Donahue, Ashley Hutchings, Vikki Clayton, Bruce Rowland, Danny Thompson, Geoff Hughes。92/2007 作。Talking Elephant)
- \*FAIRPORT CONVENTION:Old・New・Borrowed・Blue ¥1000  
(Woodworm と Green Linnet から発売され長い間廃盤だった 1995 年アコースティック・フェアポートの“Banbury Mill Theatre”でのライヴ盤が再発。ラストの“Matty Groves/Dirty Linen”のみスタジオ録音。S. Nicol, D. Pegg, M. Allcock, R. Sanders。95/2007 作。Talking Elephant)
- \*FAIRPORT WITH SWARB:Scrum-Half Bricking D  
(D. Swarbrick 救援 1000 枚限定チャリティーCD。副題“Fairport With Swarb At Derby”。2003 作。Front Row)
- \*DAVE SWARBRICK WITH FAIRPORT CONVENTION:SwarbAid ¥1500  
(“The Bonny Black Hare”, “My Heart’s In New South Wales”, “Rosie”, “When I Paint My Masterpiece”の 4 曲入チャリティーCD。Woodworm)
- \*FAIRPORT CONVENTION:Over The Next Hill C  
(2004 作。Matty Grooves)
- \*FAIRPORT CONVENTION:Who Knows? ¥1580  
(副題“The Woodworm Archives Vol.1”。1975 年 10 月 31 日の Uxbridge Brunel University でのライヴ。メンバーは Sandy Denny, Trevor Lucas, Jerry Donahue, Dave Pegg, Swarb, Bruce Rowland。曲目は“Rising For The Moon”, “One More Chance”, “Stranger To Himself”, “Sloth”, “John The Gun”, “Down In The Flood”[B. Dylan 作], “Who Knows Where The Time Goes?”他全 13 曲。2005 作。Talking Elephant)

- \*THE COMPLEAT DANCING MASTER B  
(74/2002 作。Fledg'ling)
- \*LINDA THOMPSON: Give Me A Sad Song B  
(未発表 & 希少曲集。17 曲。2001 作。Fledg'ling)
- \*RICHARD THOMPSON: Henry The Human Fly B  
(デビュー作にして孤高。オリジナル・ジャケットにはなかった希少写真付。  
w. Sandy Denny, Linda Peters, Andy Roberts, Ashley Hutchings,  
John Kirkpatrick, Barry Dransfield, Pat Donaldson, etc.  
72/2004 作。Fledg'ling)
- \*RICHARD&LINDA THOMPSON: Hokey Pokey a  
(リマスター。未発表ライヴ音源 5 曲ボーナス曲入。75/2004 作。Island)
- \*RICHARD THOMPSON: Amnesia (88 作。Capitol) ¥1780
- \*RICHARD THOMPSON: Rumor And Sigh (91 作。Capitol) ¥1780
- \*RICHARD THOMPSON: Mirror Blue (94 作。Capitol) ¥1780
- \*RICHARD THOMPSON: Action Packed C  
(副題“The Best of the Capitol Years”。息子 Teddy との新録 1 曲  
と初 CD 化 2 曲を含むリマスター全 19 曲。2001 作。Capitol)
- \*RICHARD THOMPSON: The Old Kit Bag D  
(Dual Disc {CD&DVDセット}。上記タイトルの CD に加え、裏面 DVD サイトは 5.1  
Surround Sound による全曲と 2003 年 Providence は Lupo's でのライヴ  
でエレクトリック・セットによる重厚な“Outside Of The Inside”と“Jealous  
Words”の 2 曲他歌詞やバッキング・ライヴ等収録。2003/2005 作。Silverline)
- \*ASHLEY HUTCHINGS: Kickin' Up The Sawdust B  
(リマスター。77 作。BGO)
- \*THE ALBION BAND: Albion Sunrise A  
(副題“The HTD Recordings 1994-1999”。全 32 曲入 2 枚組。2004 作。  
Castle)
- \*THE ALBION BAND: Acousticity-On Tour B  
(Ashley Hutchings, Simon Nicol, Chris While, Ashley Reed のライン  
アップの Albion の 93 年と 94 年のライヴ音源からの編集 CD。2004 作。  
Talking Elephant)
- \*THE ALBION BAND  
: Another Christmas Present From The Albion Band B  
(“Live In Concert”。2010 作。Talking Elephant)
- \*MORRISON B  
(モリス・ダンス曲をフォーク・ロック化した 70 年代ブリティッシュ・フォークの名盤。Ashley  
Hutchings, R. Thompson, D. Mattacks, J. Kirkpatrick, B. Dransfield。  
ゲスト: Shirley Collins。72/2002 作。Fledg'ling)
- \*ASHLEY HUTCHINGS/ALBION BAND  
: Songs From The Shows Vol. 1&2 ¥3480  
(2 枚組。77~89 年のコンサートとスタジオ録音。w. Phil Beer, Cathy Lesurf,  
Simon Nicol, Phil Pickett, Ric Sanders, June Tabor, John Tams,  
Graeme Taylor, etc. Road Goes On Forever)
- \*ALBION BAND: Heritage ¥2080  
(これ何だろう? と思って仕入れたら、ボーナス曲 4 曲入計 12 曲の“Rise  
Up Like The Sun”{77 作}だった。黄金期の Albion ですね。ゲスト:



- Kate McGarrigle, Richard&Linda, Martin Carthy, Andy Fairweather-Low. 77/2001 作。EMI Plus)
- \*ALBION BAND: Albion Heart (95 作。HTD) B
- \*ALBION BAND: Demi Paradise (96 作。HTD) B
- \*ALBION BAND: The Acoustic Years 1993—97 A  
(未発表曲 2 曲を含む編集 CD。全 17 曲。HTD)
- \*ASHLEY HUTCHINGS: Rattlebone&Ploughjack B  
(Morris Dance&Molly Dance Album。76 作。BGO)
- \*ASHLEY HUTCHINGS DANCE BAND  
: A Batter Pudding For John Keats (96 作。HTD) ¥1780
- \*ALBION DANCE BAND: The Prospect Before Us C  
(リマスター。76 作。BGO)
- \*RIDGERIDERS: In Concert B  
(Ashley Hutchings, Chris While, Phil Beers から成る Ridgeriders のアコースティック・ライブ。Ashley がらみのアルバムの中でも最もイングランド的で唄や音楽に最も真摯なアルバム。全 18 曲。2001 作。Talking Elephant)
- \*DAVE SWARBRICK&FRIENDS: The Ceilidh Album ¥700  
(CD-R につき検盤済み。1978 年発売の“The Ceilidh Album”に 1977 年音源の 2 曲を加えたチャリティー・アルバム。w. Simon Nicol, Dave Pegg, Bruce Rowland, Beryl&Roger Marriott, Allan Robertson。Atrax)
- \*DAVE SWARBRICK WITH SIMON NICOL: In The Club ¥700  
(CD-R につき検盤済み。1982 年のカセット・アルバムに 81 年、83 年、84 年音源 5 曲を加えたチャリティー・アルバム。全 16 トラック。2001 年作。Atrax)
- \*ECLECTION: Eclection C  
(オーストラリア人女性シンガー、Kerrille Male に Trevor Lucas, Gerry Conway, Michael Rosen, George Hultgreen から成るフォーク・ロック・バンド。彼ら唯一の 68 年作の本作はブレ・フェアポート/フォザ・ソング・イン・ザ・スタイルのとい  
うか、米国西海岸ロックの影響を受けた初期ソ・エファースン・エア・レーンのサイ  
ケ・ロック。2001 再発。Collector's Choice Music)
- \*THE BUNCH: Rock On A  
(Sandy Denny, Richard Thompson, Linda Peters, Ashley Hutchings, Dave Mattacks, Pat Donaldson, Ian Whiteman, Gerry Conway, Trevor Lucas, Tony Cox, Dundee Horns。1972/2003 作。Fledg'ling)
- \*VIKKI CLAYTON: Movers And Shakers A  
(1997 作。w. Ric Sanders, Gerry Conway, John Kirkpatrick, Martin Barre, Liam Genochey, Robert Foster, etc. 1997 作。A New Day)
- \*SANDERS, BAKER AND CLAYTON: Carried Away A  
(Rick Sanders {ウァイオリン}, Fred Thelonus Baker {ベース、ギター}, Vikki Clayton {ウァーカ、ギター} のトリオ。1995 作。Speaking Volumes)

**[CD/FOLK ROCK]**

- \*MARY JANE: Tacit A

(70年代ブリティッシュ・フォークの麗しさを追い求める Mary Jane の3枚目はライヴ・セッション。Fairport, Steeleye, Trader Horn, Trees のライブ・テープがお好みの方は必聴。“Matty Globes”そっくりな“Lady Margaret”, “She Moved thro’ the Fair”, “Blackwaterside”ほか全13曲。2000作。Seventh Wave)

\*THE STEPPES: Drop Of The Creature a  
(アイリッシュ・アメリカ人によるフォーク・ロック・バンド。70年代サイケ・ロックとブリティッシュ・フォークとが出会ったようなミステリアスなロック。70年代趣味丸出し。97作。Delerium)

\*STONE ANGEL: East Of The Sun B  
(Stone Angel の素晴らしい New。理想のブリティッシュ・フォーク&トラッド。2001作。Kissing Spell)

\*THE FOLD: Close Up B  
(Steve Holland と Joanna Shiel のカッコいいヴォーカルをフィーチャーした英美的美意識発散のフォーク・ロック。体を張ったエレクトリック・ギターやドラムやベースの音が何とも快感。97作。Orange Sky)

#### [LP+CD/ENGLAND]

\*BELLOWHEAD: Matachin D  
(イングランド屈指の大型トラッド・バンドの最近作のボーナスCD付カラーLP限定盤。2008作。Navigator)

#### [BOOK+CD/ENGLAND]

\*THE HALLIARD: Broadside Songs ¥2980  
(再結成 Halliard {Nic Jones, Dave Moran & Nigel Paterson} の新録曲10曲と1968年録音の7曲の計17曲CDとブロードサイド・ソング30曲収録ソングブック {A4版 P46。メンバー3人のサイン入!} のセット。2005作。Mollie Music)

#### [DVD/ENGLAND] PAL all regions

※PAL専用DVDプレーヤー/パソコンで再生可能

\*NIC JONES: The Enigma Of Nic Jones D  
(1982年二月の交通事故の振り返りから幕開けする Nic Jones のドキュメンタリー-DVD。Nic Jones をはじめとして Jim Moray, Chris Wood, Martin Carthy, Eliza Carthy, Anais Mitchell そして Ashley Hutchings 等など多くのミュージシャンや音楽関係者が Nic Jones について語ったり、うたったり、ギターをかき鳴らしたりする場面の後、2010年の“Sidmouth Folk Festival”での Nic Jones Trio {Nic Jones, Joe Jones, Belinda O’Hooley} のライブが収められている。加えて“Extras”として、Nic Jones Trio が三曲、Eliza Carthy が一曲、Blair Dunlop が一曲、Pete Coe が二曲、ホーム・コンサート風ライブで収録されている。Nic のにこやかな表情と穏やかなシンキングが印象的。88分。Topic)

\*THE WATERSON FAMILY: Live At Hull Truck B  
(Norma, Eliza, Mike Waterson, Martin Carthy, Mike の妻 Ann, Mike の娘 Rachel, Eleanor, Lal Waterson の息子 Oliver、娘 Marry の Waterson

Family の 2010 年の“Homecoming Concert”ライヴ。まるで肝っ玉母さん Norma Waterson の司会進行役。各出演者の見どころ、聴きどころ  
色々な Waterson 一家の伝統歌謡。Mike Waterson 翁のシンギングは特  
に聴きもの。いつの間にやら Eliza の貫禄は母 Norma 以上。“Bright  
Phoebus”, “Fine Horseman”他全 22 曲。誕生日の祝いもある至福な  
2 時間 11 分 32 秒。2011 作。Beautiful North)

- \*MARTIN SIMPSON:Prodical Son - The Concert C  
(ロンドンの Union Chapel でのライヴ。15トラックの 17 曲のライヴと Martin の故  
郷の小学校や生まれ育った町や家を訪ね、子供時代のことを振り返  
る映像。放蕩息子だった Martin が亡き母へ捧げた曲を含む 1 曲目の  
メロエは何より圧巻で、慎重に音を選ぶギター演奏を含め、ライヴなら  
ではの迫真の演唱は感動的。共演者は Andy Cutting [アコ], Kellie  
White [ヴォーカル], Andy Stewart [ベース]。2 時間 10 分。2009 作。Topic)

### [DVD/ENGLAND] NTSC all regions

※国内製 DVDプレーヤーで再生可能

- \*ELIZA CARTHY:My Music A  
(Eliza Carthy with Jon Boden, John Spiers, Ben Ivitsky, Gideon  
Juckes の白熱の生演奏からスタートする Eliza Carthy のドキュメンタリー・フ  
ィルム。Eliza Carthy のソロの生演奏と上記編成バンドの生演奏をの合  
間に、Watersons のライヴ [モノコというのが時代を感じさせる] や  
Martin Carthy のギター演奏や Marry Waterson&Oliver Knight のライ  
ヴや Billy Bragg や Norma Waterson の話しなどを挟む構成。Eliza  
の渾身の生演奏とシンギングと Eliza が身近に感じられる DVD。Eliza  
のパワー溢れるフィドル演奏が物凄い。45 分。2013 作。Gonzo)
- \*JOHN RENBOURN・JACQUI McSHEE:In Concert A  
(John の穏やかで鮮やかなギターと唄、そして Jacqui のシンギングはその  
アコースティックな空気と相まって、ある種清涼感さえ感じられる気持ち  
のいいもの。ゲスト:Clive Carroll。1 時間 22 分。2005 作。Hard Road  
Recording)

### (CD/ENGLAND [Free Reedリイシュー盤])

- \*THE OLD SWAN BAND:The Old Swan Band a  
(ダンス音楽としてのみならず、イングランドのトラッド・アルバムとして魅力的  
な OSB の 78 年の 2 枚目。コンサティナ&トロンボーンの Mel Dean の加入効果か  
バンドの音楽は躍動的でダイナミックに変身し、男女の古風なシンギングは  
大空をかけるように輝いている。イングランドのダンス音楽の一つの頂  
点的。78/2008 作。Free Reed)
- \*ROARING JELLY:Golden Gates / MICHAEL HEBBERT a  
:The Rampin' Cat  
(イギリスのラグタイムやスキル、ジブシー音楽、古いジャズやホピュー音楽そし  
てセピア色の愉快的な唄のコミック・バンド Roaring Jelly [Derek Pearce,  
Clive Harvey, Mick Hennessey] の 76 年のデビュー作とパブ・ミュージシャ  
ンでコンサティナ奏者の Michael Hebbert の 76 年のデビュー作の“2 on 1”。  
ゲスト:Rod&Danny Stradling, John Tams, Steve Bentley, Andrew  
Frank [ヴォーカル]。全 22 トラック。76/2008 作。Free Reed)

- \*ALISTAIR ANDERSON: Concertina Workshop a  
 (副題“Traditional Music On The English Concertina Played Alistair Anderson”。High Level Ranters で今もコンサーティン演奏家として教師として活動している Alistair の 74 年作。本作に即した 28 曲収録の楽譜はイングリッシュスタイルのコンサーティンを学ぶ生徒に人気。模範演奏として最高の音楽。w. Dave Richardson, Tich Richardson, Geoff Harris, Graham Pirt {見事なトラッド・シンキング!}。A. L. Lloyd のオリジナル・リーダー・ノート付。14トラックの 28 曲。74/2008 作。Free Reed)
- \*THE TRANSPORTS “The 1977 Ballad Opera By Peter Bellamy” D  
 (オーストラリアへの囚人の搬送の歴史的事実をもとに制作されたバラッド・オペラ。発売年に“Folk Album Of The Year”に輝き、その 30 周年記念に再リリース。w. June Tabor, Nic Jones, A. L. Lloyd, Martin Carthy, Norma Waterson, Mike Waterson, Vic Legg, etc. ラストはボーナス曲で Fairport による“Dance: The Convicts’ Wedding”の豪快なエレクトリック・トラッドで幕。77/2008 作。Free Reed)

### [EP/ENGLAND]

- \*SHIRLEY COLLINS: English Songs Volume 2 ¥1590  
 (1958 年と 1959 年の収録で、1964 年に英国のコレクター・レコーズからリリースされたという四曲収録のシングル盤の再発盤。デビュー当初の頃の Shirley Collins の素朴で初々しいフォーク・ソングにうっとり。曲目は A 面が“Dance To Your Daddy”と“The Spermwhale Fishery”で、B 面が“My Bonny Miner Lad”と“The Foolish Boy”。伴奏は自身のバンジューと Robin Hall のギター。伴奏楽器としてのギターとバンジューの素朴さが時代の空気を感じさせる。彼女のデビュー作“Sweet England”{1959 年}の感動再び。2015 年再発。Fledg’ling)

### [CD/ENGLAND]

- \*CHRIS FOSTER: Hadelin C  
 (現在アイスランドに住むイングランドのヴェテラン・トラッド・シンガーの小鳥のさえずりから始まる Chris Foster の新作は、思いも掛けずイングランド的に美しい見事なイングランドのトラッドで、驚喜してしまった。Martin Carthy や Dick Gaughan スタイルの冴えたギターの弾き語りを基調に Jackie Oates, John Kirkpatrick, Jim Causley, Jim Moray, Martin Brinsford などの心からの演唱を伴った音楽の、何と美しく、そして心に響くこと! 唄のほとんどは、チャイルド・バラッドとラウド・フォークソングだが、Chris は自身の豊富なレパートリーから、思い入れのある伝統歌をじっくりと丁寧にうたい上げている。Chris の想いに寄り添い、イングランドのトラッドの基本に立ち返った音楽作りを成し遂げた Producer の Jim Moray の手腕も誉めてあげたい。ラストは参加者全員参加の“Spring”という Chris 自作の曲。最後、小鳥のさえずりと子どもの唄で幕を閉じる何とも美しい曲だが、この曲は春の良い唄が見つけれず、自分で作ったという。2017 作。Green Man)

- \*CHRIS FOSTER:Outsiders(前作。2008 作。Green Man) B
- \*COHEN BRAITHWAITE-KILCOYNE:Outway Songster B  
 (これは驚きのイングランドのトラッド野郎だ。Granny's Attic というグループのメンバーだそうだが、同じ WildGoose からリリースされている CD を聴いた記憶がない。聴いていたら、恐ろしくイングランド的な彼のトラッド・シンギングに耳を奪われていただろう。曲目は 17、18、19 世紀起源とされる伝統歌/バラッドが中心で、コンサーティーナとアコを様々なリズムを奏でながらシンギングする Cohen は、顔{失礼!}に似合わず、フォーク・リバイバル期のイングランドの大物、それも若き日の大物トラッド・シンガーのシンギングを思い起こさせる。聴き惚れてばかり。2017 作。WildGoose)
- \*CHRIS WOOD:So Much To Defend C  
 (全曲自作曲で占めた本作は、英国トラッドの香りを立たせていたこれまでの彼の音楽とは違って、唄が内面に向けられているというか、うたう心が素直な感じがする。二曲目“This Love Won't Let You Fail”は、わが子が家を離れた両親の寂しさをうたった唄だが、自身の優しいギターと Gary Walsh の優しいハモンドオルガンの音色とともに、胸にぐっとくる。全曲、内面からわき上がるものをそのままギターを爪弾き、うたったかのような唄は、祈りにも似た内なるパワーを感じずにはいられない。2017 作。RUF)
- \*NANCY KERR:Instar B  
 (Nancy Kerr&James Fagan の Nancy のソロ。The Full English や Murmurs ではトラッド・ミュージシャンとして活動する一方で、ソロはブリティッシュ・フォーク/SSW 路線を強く打ち出している。Sweet Bisitor Band{James Fagan, Rowan Rheingans, Greg Russell, Tom Wright, Tim Yeates}による英国トラッド~フォーク・ロックの範囲でとびっきりの英国サウンドのもと、Nancy は唄を輝かす。フォーク・ロックなのは Nancy with Albion Band っぽかったり。母となった Nancy の唄はしなやかでしたたか。2016 作。Little Dish)
- \*NANCY KERR & JAMES FAGAN:Twice Reflected Sun A  
 (北イングランドのトラッド・スタイルを保持した Nancy&James のシンギングとフィドル、ブラス、ギターの伴奏は本作においても快調。とりわけ Nancy の北イングランド流の凜としたシンギングは格別で、自作曲での豊かな詩情は、James の表現力豊かなブラスと Nancy の北イングランドの空気たっぷりの緩急自在なフィドルの伴奏と相まって、孤高の輝きを放っている。2010 作。Navigator)
- \*FAUSTUS:Faustus(2008 作。Navigator) A
- \*KATE RUSBY:Life In A Paper Boat B  
 (4 枚目のスタジオ録音盤。w. Nick Cooke, Steven Byrnes, Steven Iveson, Duncan Lyall, Mike McGoldrick ほか。2016 作。Pure)
- \*KATE RUSBY:The Frost Is All Over B  
 (Kate Rusby の 2015 年作のクリスマス・アルバム。ブックレットも隅から隅まで雪色。w. Aaron Jones, Cormac Byrne, Nick Cooke, Steven Byrnes, Steven Iveson, Duncan Lyall ほか。2015 作。Pure)

\*MR. MARTIN SIMPSON & MR. DOM FLEMONS

:A Selection Of Ever Popular Favourites B

(2015年の秋に Martin Simpson と Carolina Chocolate Drops の創設メンバーでアメリカン・ソングスターの Dom Flemons がデュオを組んで、コンサートを行ったときのライヴ。曲目は米国の白人黒人の枠を超えた古き良き音楽。Martin ファンが聴けば、Martin の米国趣味の音楽に大衆性が増したように聞こえて、面白いだろうし、Dom Flemons のファンが聴けば、米国庶民の古き良き娯楽音楽に品性が備わったように感じられて、新鮮な印象を持つだろう。米英の個性派が混ざり合って、ある種異種交配的な面白さもある米国の古き大衆音楽の世界だ。2016 作。Fledg'ling)

\*MARRY WATERSON AND DAVID A. JAYCOCK:Two Wolves B

(Waterson ファミリーの Marry の本作は、彼女が追い求めてきた 70 年代ブリティッシュ・フォーク風フォークを極めたあの時代の空気感をピュアに保持した信じられないほど心ときめく音楽。その空気感を演出するのはギタリストの David A. Jaycock の魔法的に美しいアコースティック・ギターの響き。w. Kami Thompson, Neill MacColl, Kate St. John, Simon Edwards。2016 作。One Little Indian)

\*MARRY WATERSON & OLIVER KNIGHT:Hidden A

(Waterson ファミリーの子世代の Marry&Oliver の本作は、Oliver の、まるでギターのアコースティック&エレキ・ギターをフィーチャーした夢模様のブリティッシュ・フォーク・サウンドの中、Marry は彼女ならではの独特な唄の世界を創作している。w. Eliza Carthy, Miranda Sykes, Barry Coope, Jim Boyes, Lester Simpson, etc. 2012 作。Little Indian)

\*CROWS:Time To Rise! B

(Crows は 1977 年から 1987 年まで活動したイングランドを代表するトラッド・グループで、メンバーは Mick Ryan, John Burge, James Patterson, Ralph Jordan の四名。1981 年に“Crows”、1986 年に“No Bones Or Grease”の二枚のアルバムを発表。本作は一枚目から 6 曲、二枚目から 2 曲に加えて、1982 年と 1983 年にラジオ番組のために収録した未発表音源から 8 曲を加えた新譜。2016 作。WildGoose)

\*JIM CAUSLEY:Forgotten Kingdom C

(Jim Causley の五枚目に当る本作は、4 世紀から 8 世紀にイングランド西南部を支配していたケルト王国ダムノニアを夢想して制作されたもの。w. Jackie Oates, Phil Beer, Steve Knightley, Miranda Sykes, Rex Preston, Phillip Henry, Hannah Martin, James Dumbelton, Seth Lakeman, Steve Tyler, Katy Marchant, Lukas Drinkwater, The Claque, Ninebarrow, Mark Bazeley, Kathryn Roberts, Nick Wyke & Becki Driscoll, Reese Wesson, Chris Hoban & Old Uncle Tom Cobley。2016 作。Hands On Music)

\*CIARAN ALGAR:The Final Waltz B

(2013 年に BBC2 の“Young Folk Award”賞受賞の Greg Russell & Ciaran Algar の天才アイリッシュ・フィドラーの Ciaran のソロ・デビュー作。2015 作。Fellside)

- \*THE BALLADS OF CHILD MIGRATION B  
 (副題“Songs For Britain's Child Migrants”。本作はチャイルド・バラッド集ではない。1869年から1970年の間に、約10万人の英国人の子どもが親なしで海外に移住したという。その内の約9万人がカナダだったという。本作はフォーク/トラッドのミュージシャン達が移民していった子ども達の唄を作詞作曲し、うたったもの。この企画に賛同したミュージシャンは、Chris While& Julie Matthews {4曲}, Jez Lowe {4曲}, John Doyle {1曲}, Coope Boyes&Simpson {2曲}, John McCusker {フイドル演奏。1曲}, Boo Hewerdine {2曲}, Belinda O'Hooley&Heidi Tidow {2曲}。通してヴォーカルを中心に据えたアコースティックな音作り。しかもどの唄も親から離れ離れになった子どもの心に寄り添うように優しい。シンガーは次から次に変わるのに、不思議な優しい空気が、通して流れている。ほっこりした気分。w. Andy Cutting, Ian Carr, Michael McGoldric, etc. CDブック型CD。2015作。Delphonic)
- \*ELLE OSBORNE:It's Not Your Gold Shall Me Entice C  
 (本作が三枚目の英国の女性SSWのElleの新作。彼女の音楽資質はShirley CollinsやLal Watersonなどの英国フォーク/トラッド。面白いことに共演者はAlan Robertsの息子でフォーク・シンガーのAlasdair Robertsやスコットランドのフォーク・ロック・バンドのTrembling BellsのMike HastingsとAlex Neilson等のスコットランド勢。そんな組み合わせで生まれた本作は、今日の錬磨された英国トラッドとは一線を画した60年代後半から70年代初期のブリティッシュ・フォークの肌触りを感じさせる粗いフォーク。2015作。9th House)
- \*THE DOVETAIL TRIO:Wing Of Evening C  
 (聴いていて、ついほほえみが出てしまうRosie Hood {ヴォーカル}、Jamie Roberts {Gilmore & RobertsのRoberts/ヴォーカル、ギター}、Matt Quinn {コンサティナ、ヴォーカル}の一姫二太郎のイングランドのトラッド・ユニットのDovetail Trioの清々しいデビュー作だ。三人の演唱は清々しく爽やかでありながら、イングランドのトラッドのシンギングとダンス音楽の美味なツボを体得しているかのように見事で、さらりと骨抜きにする。イングランドのトラッド界の金の卵。2015作。Rootbeat)
- \*ANGE HARDY:Esteese B  
 (Ange Hardyの新作は英国のロマン派の詩人サミュエル・テイラー・コールリッジ {1772年-1834年}の詩にインスピレーションを得て創作されたフォーク・アルバム。ブリティッシュ・トラッド/フォークの真の優美さを表出していて、独自のイングランド版的夢想浪漫世界を創出していて素晴らしい。w. Steve Knightley, Patsy Reid他。P28のブックレット付。2015作。Story)
- \*PETE MORTON:The Land Of Time A  
 (Pete Mortonのようなトラッドとフォークの両要素を保持し、社会的な唄やラヴ・ソングやウイットの利いた唄などの自作曲を様々な曲調で自由にうたうフォーク・シンガーが昨今少なくなったが、久々に聴くPete Mortonの唄は、まるで広い大地に立って、遠

く彼方をみやってうたっているかのように、唄が健やかでたくましい。英国フォークの伝統に根ざした「アナログ」な唄の数々だ。  
w. Linda Adams, Chris Parkinson, Jon Brindley, Ciaran Algar, James Budden。2015 作。Fellside)

\*ELIZA CARHY・TIM ERIKSEN: Bottle C

(本作は 2013 年の夏から 2015 年の一月の間に、Eliza Carthy と Tim Eriksen がデュオで行ったライブからの 13 トラック。本作は、副題 “A Game For Two Players” の通り、英米トラッドのゲームなのだ。Eliza はトラッド・シンガー & フィドラーとして、そのまま。そこに Tim がエレキギターをかき鳴らしたり、ギターやバンジョーを弾いて、渾身のシンギングで対抗する。そのシンギングたるや Eliza 以上に英国トラッド臭かったりする。二人とも +α のパワーを噴出している。Navigator。2015 作)

\*FOLK AWARDS 2010 a

(2010 年 BBC Radio2 のフォーク賞各部門にノミネートされたシンガー/グループ {Cara Dillon, Show Of Hands, Unthanks, Maukin:Gausley, Martin Simpson, Hannah James&Sam Sweeney, Bellowhead, Jackie Oates, Lau, John Kirkpatrick, Jon Boden, Megson 他} の 2 枚組 CD。全 22 トラック。2008 作。Proper)

\*PETE COE: In Paper Houses (2004 作。Backshift) C

\*DAVID ROTHERAY'S "The Life Of Birds" A  
(David Rotheray の作曲曲を主にイングランドのトラッド/フォーク系シンガーがうたうシリーズの第一作目。Eliza Carthy, Bella Hardy, Kathryn Williams, Alasdair Roberts, Julie Murphy, Jim Gausley, Eleanor McEvoy, Camille O' Sullivan, Jack L, Nat Johnson。全 14 トラック。2010 年。Proper)

\*BROOM BEZZUMS: Winterman C

(Broom Bezzum は Andrew Cadie と Mark Bloomer の二人組による「冬とクリスマスの伝統曲集」。驚くのは二人の英国トラッド/フォークの気品と気高さに充ちたヴォーカルとアコースティックギターとフィドルのサウンド。英国トラッド/フォークとしての質の高さは、Spiers&Boden と肩を並べる。しかも大半の曲で Katie Doherty がヴォーカルで加わっていて、+α の魅力の英国トラッド/フォークで魅了する。2012 作。Steeplejack Music)

\*YOUNG TRADITION: Oberlin 1968 B

(Young Tradition {Peter Bellamy, Royston Wood, Heather Wood} の 1968 年 11 月 17 日、米国の Oberlin College で行われたライブ。イングランドのトラッド・ファンなら冷静には聴けない見事なアカペラによるトラッド・シンギング・アルバム。三人のシンギングは極めてスティック。そのスティックさが音楽的にイングランド的気品を生み、伝統歌の質をピュアに高めている。Peter Bellamy のシンギングのみならず、Royston も Heather もオーラを放つほどに見事なシンギングを高く貫いている。滅茶苦茶素晴らしい。アカペラによるイングランドのトラッド・シンギングの原点であり、一つの理想型。全 25 曲。1968/2013 作。Fledg'ling)

\*PAUL DOWNES: The Boatman's Cure B

(Paul Downes を初めて知ったのはフォーク・ロック・バンドの Arizona Smoke Revue だった。彼がレコーディングに関わったアルバムは約 250 枚もあると



- いう。本作はソロ・アルバムとしては五枚目。“Farewell Nancy”等のトラッドと Mick Ryan, Harvey Andrews 等のフォーク系 SSW のメンバーが半々の本作は、Paul の人情派？熟練フォーク・シンガーとしての味わいがじっくり味わえる一枚になっている。w. Maggie Boyle, Jackie Oates, Phil Beer, Keith Kendrick, Gill Redmond。全 12 トラック。2013 作。WildGoose)
- \*CYRIL TAWNEY: Man Of Honour B  
(1997 年のサット・アルバムがめでたく CD 再発。本作はフォーク・シンガーの Cyril が自作曲 14 曲を 1995 年～1997 年にギターの弾き語りを中心に収録したアルバム。副題を付けるとすれば「酒と女と海」だろうか。この副題だと、トム・ウエイを思い浮かべそうだが、中身は真逆。Cyril の「酒と女と海」は、暖炉のある暖かな部屋で、昔の思い出を偲ぶ感じで、終始穏やかペース。ゲスト: Chris While。1997 年/2012 年。Talking Elephant)
- \*JOHN KIRKPATRICK: The Dance Of The Demon Daffodils A  
(2010 年 BBC2 “Folk Awards” の “Musician Of The Year” 入賞作。2009 作。Fledg’ling)
- \*THE FLYNN BROTHERS: The Flynn Brothers ¥2500  
(Produced by Martin Carthy。推薦文: Davy Graham。1991 作。Annadale)
- \*THE YOUNG’ UNS: When Our Grandfathers Said No A  
(本作が 4 枚目のイングリッシュ・バンド出身の男性フォーク・トリオ。メンバーは Sean Cooney {ウオカール}, David Eagle {ウオカール、キーボード、アコ}, Michael Hughes {ウオカール、ギター}。「今日のフォーク・シーンで、最も人気のある面白い奴らだ」とは Jez Lowe。2012 作。Navigator)
- \*PETER BELLAMY: Merlyn’s Isle Of Gramarye A  
(Rudyard Kipling の本 “Puck of Pooks Hill” と “Rewards And Fairies” からの Rudyard Kipling ソング集第二段。Rudyard の唄をトラッドのフォームで演唱した本作は P. Bellamy の入魂のシンキング 他イングリッシュ・バンド・アルバムの名盤。ゲスト: Nic Jones, Dolly Collins, Dave Arthur, Dik Cadbury, etc. 72/2011 作。Talking Elephant)
- \*PETER BELLAMY: Oak, Ash And Thorn A  
(Rudyard Kipling の本 “Puck of Pooks Hill” と “Rewards And Fairies” からの Rudyard Kipling ソング集第一段。Rudyard の唄をトラッドのフォームで演唱した本作は P. Bellamy の入魂のシンキング 他イングリッシュ・バンド・アルバムの名盤。ゲスト: Royston Wood, Heather Wood, Barry Dransfield, Robin Dransfield。70/2011 作。Talking Elephant)
- \*BRAM TAYLOR: Jokers & Rogues A  
(光に照らされた新緑の葉っぱのような清々しい唄だ。本作が 10 枚目を数え、レコーディング・アーティストとして 27 年のフォーク・シンガーの B. Taylor の唄は、齢を重ね、逆に若々しい。Dylan の “I Shall Be Released” はアコースティック・ギターとエレキ・ギターを絡ませた伴奏で、70 年代フォークっぽくどことなく Iain Matthews っぽい。2012 作。Fellside)
- \*THE GIFT BAND: Live On Tour B  
(Norma Waterson, Eliza Carthy, Martin Carthy の親子に Phil Alexander, Aidan Curran, David Donnelly の Gift Band による 2010 年の Union Chapel でのライブ二枚組。Norma の豊富なレパートリーを中心に、トラッドとコンテムポラリー・ソングの垣根なく、母なる柔軟な音楽で聴き

- 手を包み込む。全17トラック。2011作。Scarlet)
- \*WHEELER STREET:Live B  
 (Wheeler Street は、紅一点の Sophy Blundell がヴォーカルのフォーク・フェスやライブで人気急上昇中のケントの若者7人組トラッド・バンド。アイルランドのノリと楽しさ、フォーク・ロックの力と醍醐味そしてトラッド・シンギングの清澄さ等、彼らは彼らの柔らかい感性にフィットしたトラッドをあの手この手で若々しく、エネルギッシュに演唱する。Great! 2011作。Stump Nugget)
- \*HOME SERVICE:Live 1986 A  
 (メンバーは John Tams [リト・ヴォーカル], Howard Evans, Graeme Taylor, Roger Williams, Howard Evans, Steve King, Andy Findow。フォーク・ロック・バンドの横綱“Home Service”の1986年のライブ。場所はケンブリッジ・フォーク・フェスティバル。このライブは素晴らしい。John Tams のヴォーカルは威風堂々とし、バンドのサウンドは揺るぎがなく重厚。文句の言いようのない Home Service らしい怖れ知らずのフォーク・ロックのオンパレード。2011作。Fledg'ling)
- \*MIDWINTER ¥6900  
 (副題“A Celebration Of The Folk Music & Traditions Of Christmas & The Turning Of The Year”。P156の解説本付4枚組ボックスセット。イングランドの著名フォーク&トラッド・シンガー大集合。クリスマス期音楽の集大成。2006作。Free Reed)
- \*THE GIFT BAND:Live On Tour B  
 (Norma Waterson, Eliza Carthy, Martin Carthy の親子に Phil Alexander, Aidan Curran, David Donnelly の Gift Band による2010年の Union Chapel でのライブ二枚組。Norma の豊富なレパートリーを中心に、トラッドとコンテムポラリー・ソングの垣根なく、母なる柔軟な音楽で聴き手を包み込む。全17トラック。2011作。Scarlet)
- \*VICKI SWAN & JONNY DYER:Stones On The Ground A  
 (「フォーク・ソング」というのは石ころのようなものという Vicki & Jonny の本作はイングランドのトラッドと Vicki の母親の故郷スウェーデンのトラッドに Johnny のオリジナル曲を加えた作品。英国調とスウェーデン調の見事なトラッド・アルバムだ。2011作。WildGoose)
- \*VICKI SWAN・JONNY DYER:Gleowien (2009作。WildGoose) A
- \*ELIZA CARTHY:Neptune B  
 (フォーク・スタイルのアカペラからミュージック・ホールの音楽、醍醐味あるフォーク・ロック、ユーモラスな音楽、エレガントな音楽、トピカルな音楽、ノスタルジックな音楽等などまるで色んな音楽が飛び出す唄のヴァリエーション・ショーを観るような印象。そんな音楽を Eliza は各唄の主人公になり、演技するように意気揚々とうたっている。w. Phil Alexander, Willy Molleson, Bethany Porter, Emma Smith, Heather MacLeod。2011作。Hem Hem)
- \*TOM McCONVILLE:Tommy On The Road B  
 (ヴァイオリン・シンガーでフィドル奏者の T. McConville の本作はノサンバーランドとスコットランドの音楽を中心にアイルランドを加えた唄とフィドルのアルバム。唄とフィドルはほぼ半々で、唄物は Ewan MacColl 作“Jamie Foyers”や Benny Gallagher 作“Stay Young”や Steve Tilston 作“Slip Jigs and Reels”等、Tom の温厚なヴォーカルが心に沁みるちよっぴり懐古趣味的で滋味豊かな唄ばかり。w. Chris Newman, Aaron Jones, Shona

- Kipling, Damian O' Kane, David Newey. 2010 作。Tomcat Music)
- \*KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS: Up From The Deep C  
(二人のイングランド・スタイルの音楽は新たな生命力を持ち、すこぶる魅力的なフォーク&トラッドを創作している。2010 作。GR!)
- \*KATRIONA GILMORE & JAMIE ROBERTS: Shadows & Half Light B  
(Jamie の理知的で思索的で、英国的陰影に富むヴォーカルと Katriona の涼やかなヴォーカルが魅力。理想のブリティッシュ・フォーク。2008 作。Gilmore Roberts)
- \*TYDE: Tyde B  
(注目の北イングランドの若きトリオ。メンバーは紅一点のシンガーでフィドル奏者の Heather Gessey、ギター奏者の Seth Tinsley そしてアコ奏者の Andrew Waite。三人は若いながら、アイルッシュ、スコティッシュ、ノースブリアンなどの曲をヴェテラン・セッション・ミュージシャン並に演奏し、驚かせる一方で、紅一点の Heather はノースブリアンの伝統音楽への傾倒が色濃いフィドルの演奏とシンギングで花を添えている。2010 作。Mrs Carsy)
- \*MEGSON: The Longshot A  
(イングランドのベスト・フォーク・デュオとして評判の Debbie & Stu Hanna の二人組 "Megson" の本作は新旧の労働者の暮らしにまつわる唄を集めたアルバムで伝統歌と自作曲がほぼ半々。特筆すべきはイングランドの薫りに充ちた二人のヴォーカル・ハーモニーの見事さ。2010 作。EDJ)
- \*MEGSON: Take Yourself a Wife A  
(イングランド北東部の伝統音楽に根ざしたフォーク・デュオの 2 枚目。2008 作。EDJ)
- \*MICK RYAN & PAUL DOWNES: Away In The West A  
(Mick Ryan との付き合いも Mick Ryan & John Burge からだからもう 32 年。Mick の力強く、かつ伸びやかなシンギングは今が旬と思えるほど勢いがある。その勢いは彼のまるやかなシンギングとともに美しい唄をさらに美しい唄にもしている。これぞトラッド・シンギングの見本と言いたいほどだ。聴き惚れてばかり。w. Jackie Oates, Paul Hutchinson. 全 14 曲。2010 作。WildGoose)
- \*JOHN JONES: Rising Road C  
(Oysterband のヴォーカルの J. Jones の徹底してイングランド気質の気骨あるソング。w. Seth Lakeman, Benji Kirkpatrick, Ian Kearny, Alan Prosser, etc. 2009 作。トイ Westpark)
- \*LIZZIE NUNNERY: Company Of Ghosts A  
(2008 年 BBC ラジオの "Best Newcomer" 賞優勝の若き女性 SSW のファースト・アルバム。Lizzie の唄は独特で、夢見る少女のような遊び心があって、何とも愛らしく聴き手の心を弾ませる。独特なのは本人とプロデュースの Vidar の二人ともが爪弾くウクレレとギターで、木漏れ日の心地よさというか、肌触りのよい手作りな響きが何とも何とも快い。2010 作。Fellside)
- \*CHRIS WOOD: Handmade Life B  
(現在 Imagined Village で活動中で、イングランドを代表するトラッド・シンガーに成長した C. Wood の 2010 作。珠玉のブリティッシュ・トラッド/フォーク・アルバム。2010 作。RUF)
- \*PETE MORTON・ROGER WILSON・SIMON EDWARDS

- :Urban Folk Vol. 2 B  
(Urban Folk Vol. 1 とセットの 2 枚組。全 24 曲。97 作。Harbourtown)
- \*IAN KING:Panic Grass & Fever Few B  
(Shirley Collins が「This is English folk music for the 21st century!」と言ったという期待の新星。“Adieu To Old England”, “Death and The Lady”他全 13 曲。2010 作。Fledgling)
- \*DAMIEN BARBER・MIKE WILSON:Under The Influence A  
(2010 年 BBC2“Folk Awards”の“Best Duo”入賞。70 年代の英国トラッド・ファンへの推薦盤。Damien と Mike は Damien が奏でるコンサーティーナやギターが英国トラッドの土臭さを立てる中、Peter Bellamy や Dick Gaughan や Ewan MacColl 等のアルバムで覚えた唄を当時の彼らのシンキングの気概をそのままエレキとして、奮起して毅然とシンキングする。ジャケットは 70 年代の LPジャケット風。2009 作。Demon Barber Sounds)
- \*ROGER WATSON:Past And Present A  
(Muckram Wakes、New Victory Band を経て、トラッド・シンガー兼ジャズ奏者としてソロ活動の道を進むウエランの R. Watson の本作は、何とも心安らぐトラッド・シンキングとダンスの楽しさを保持した心身を芯からほぐしてくれる唄と音楽。滋味豊かなイングランドの香り漂う唄と音楽。w. Jackie Oates&Tim Walker。2009 作。WildGoose)
- \*BELSHAZZAR'S FEAST:Frost Bites A  
(2010 年 BBC2“Folk Awards”の“Best Duo”入賞。イングランドのトラッド界の二匹の若獅子 Paul Sartin[ヴォーカル、フィドル、オボエ]と Tom Paul Hutchinson[アコ]によるクリスマス音楽。2009 作。WildGoose)
- \*BELSHAZZAR'S FEAST:The Food Of Love B  
(スタジオ録音とライブ録音の 2 枚組。本作は正に極上のイングランドのダンス音楽とトラッド・シンキング・アルバム。二人が奏でる音楽はイングランドのダンス曲の風合いをキープしつつ、他のモリス・ダンス・タイプの有名どころとは気高さと優雅さで上を行っている。2008 作。WildGoose)
- \*DARWIN SONG PROJECT - Shrewsbury 2009 B  
(フォーク・フェスティバルで企画されたスコットランド、イングランド、アメリカのトラッド・シンガーや SSW によるユニークなコラボレーション。ライブ・アルバム。メンバーは 8 名。Chris Wood, Karine Polwart, Jez Lowe, Emily Smith, Krisa Detor, Rachael McShane, Mark Erelli。一人から四人のグループで、一曲一曲をカバーする。最後は 8 人全員でシンキングの競演で幕。全 17 曲。2009 作。Shrewsbury Folk Festival)
- \*JON BODEN:Songs From The Floodplain B  
(2010 年 BBC2“Folk Awards”の“Best Singer Of The Year”入賞。P34 の写真・歌詞ブックレットの限定盤。本作はトラッドのメロディを借用した自作の唄が中心で、ギター、コンサーティーナ、モーターフォン、ドラムス、バグパイプなどの英国トラッド臭わき立つ中、持ち前の威風堂々たるシンキングで釘付けにする。徹頭徹尾 Jon らしさが煮詰められたイングランドの気品と香り立つ傑作。2009 作。Navigator)
- \*BELLOWHEAD:Matachin B  
(2010 年 BBC2“Folk Awards”の“Best Group”入賞。P32 のブックレット付デラックス・エディション限定盤を販売。イングランドのトラッド・シーンの若獅子達 11 名によるスーパー・トラッド・バンドの 2 枚目。Jon Boden&John Spiers と

Faustus の Benji Kirkpatrick と Paul Sartin を中心に外堀を管楽器やバグパイプやパーカッションで固めたお祭りバンド。イングランドのトラッドの可能性を大きく押し広げる頼もしい演唱の数々だ。2008 作。

Navigator)

\*SPIERS & BODEN:Vagabond

B

(Spiers&Boden の本作は一瞬たりとも耳が話せないまさに感電死級のイングリッシュ・スタイルのトラッド音楽でモリス音楽を含めたかれこれ 40 年のイングランドのトラッド音楽の金字塔的傑作。蛇足ながら、6トラック目で“Mary Anne”をうたってるのだが、実はこの唄は SSW の Shep Cooke が彼の 2 枚目でうたっていて、聴いていると私の頭の中で Shep のうたが重なって流れてくる。2008 作。Navigator)

\*UISCEDWR:Fish Cat Door

C

(オリジナル・メンバーの Anna Esslemont {ヴォーカル、フィドル}&Cormac Byrne {パーカッション、パーカッション}に Karen Tweed {アコ}と James Hickman {ギター}が加わった Uiscedwr の 2009 作。フィドルとアコとパーカッションとギターの妙技が冴えて、最高にグルーヴィーなダンス曲を繰り広げる。数曲で聴ける Anna 嬢のヴォーカルは純情無垢な可愛らしさ。2009 作。Yukka)

\*FOLK FOR MS “Generosity”

A

(20 年の活動暦という FfMS {Folk For MS} 支援のための編集 CD。Jez Lowe, Barry Dransfield, Pete Coe, Dave Burland, Harvey Andrews, Roger Watson, Tom & Barbara Brown, Askew Sisters, Johnny Coppin, Vin Garbutt, Huw&Tony Williams, Cosmotheke, Roy Bailey & John Kirkpatrick, Artisan, Cockersdale, Mike Nicholson 他提供による全 20トラック。2009 作。WildGoose)

\*MAWKIN・CAUSLEY:The Awkward Recruit

B

(2010 年 BBC2 “Folk Awards” の “Best Group” 入賞。James and David Delarre, Danny Crump, Alex Goldsmith の 4 人組 Mawkin に、今イングランドの若手トラッド・シンガーの中で、今最も伝統歌の心がうたえると評判の Jim Causley {Under One Sky/Devil’s Interval} が加わった、今最も華のあるトラッド・グループ。Jon&John 的なイングリッシュ・スタイルのトラッドのコアに向かうトラッドで歓喜させ、ヴォーカルを中心にグループとして多彩なイングリッシュ・スタイルのトラッドで心遊ばせる。今が旬。2009 作。Navigator)

\*MOULTON MORRIS MEN:Where The Pavement Ends

A

(1972 年に結成されたモリス・ダンス・バンドの 1979 年制作のアルバム {Dave Pegg&Simon Nicol のプロデュース}に 4 曲のボーナス・トラック加えて再発。全 20トラック。当時 Melody Maker 誌のフォーク・チャート 1 位。メンバーは Simon Care, Gareth Turner, Guy Fletcher, Dave Jolly, Gareth Warren で、その後モリス音楽の分野、特に革新的分野で大活躍するツワモノ揃い。ライブ感たっぷり、モリス音楽の楽しさと醍醐味をたっぷり聴かせるモリス音楽の名作。2009 作。Talking Elephant)

\*ANDY MAY:Happy Hours

A

(Jez Lowe Band のメンバーで若手ノックアウト・リアン・パイプの筆頭格の A. May の本作はまさに空を羽ばたく勢い。一曲一曲に彼の思い入れが込められた様々な表情のパイプ演奏が楽しめる。2009 作。Fellside)

\*JIM MORAY:Jim Morray

A

(2003 年作のデビュー作は “Liege&Lief” 以来の最重要作」と評価され

話題を呼んだが、前作同様オク趣味に徹した Jim にしか創作出来ない Jim 印の耽美なイングランドのトラッドの世界。“全てが夢の中”。病み付き保証。2006 作。Niblik)

- \*THE NAVVY'S WIFE D  
(2 枚組。「人夫の妻」と題された本作は、アイルランド系イギリス人トラッド・シンガーの Mick Ryan によるフォーク・ドラマ。イギリスで鉄道や運河や道路の建設に携わったアイルランド移民の苦難や悲哀や希望や楽しみや喜びをアイルッシュやイングリッシュ・トラッドのスタイルでうたい、音楽を付けた大作。本作に参加したシンガーは M. Ryan, Jackie Oates, Paul Downes, Judy Dunlop, Heather Bradford, Roger Watson。2008 作。WildGoose)
- \*THE MARTIN GREEN MACHINE “First Sighting” B  
(Lau のアコ奏者 Martin Green のやりたい放題の実験音楽。ホークリスな彼の音楽性からある程度想像していたが、やはりジャンル分け困難な実験的でユーモラスでお遊び感覚のクロスオーバー音楽。色彩感豊かで、遊園地音楽とも言いたい音楽。彼はほつま遊び好きやな。子どものままの感性の音楽家。w. Inge Thomson, Barnaby Stradling, Tom Cook, etc. 2009 作。Navigator)
- \*GRAHAM & SAM PIRT: Dance Ti' Thee Daddy A  
(母親の膝の上で覚えたという伝承歌などのノサンバランドのトラッドやそこで出逢ったトラッドなどを中心にした唄や音楽を父息子の親子でコンサティナ&アコ・デュオの伴奏で演唱したもの。シンキングは驚くほど丁寧で穏やか。時の流れから隔離されたようなイングランド東北地方の穏やかなトラッドの世界だ。2008 作。Fellside)
- \*SIMON CARE: Oh What A Caper A  
(イングランドのダンス音楽シーンで、イングランドを代表する百戦練磨のモード・デュオ奏者の編集 CD。Whapweasel, The Lark Rise Bnd, The Albion Christmas Band, Edward 11, The Morris On Band など全 15 トラック。2008 作。Talking Elephant)
- \*RUBUS: Rubas A  
(Rubus は Emily Portman 嬢がリード・ヴォーカルのイングランドの若きトラッド・バンド。11 曲中 10 曲が伝統歌。Emily のシンキングは往年のイングランド女性のトラッド・シンガー・タイプ of 硬質で、凛として孤独感を漂わせる。音楽的には 70 年代風で、どこか Pentangle 的というか、雑多な音楽性を持っていて、独特な暗さと土臭さのあるイングランドのトラッド・サウンドを体現している。2008 作。WildGoose)
- \*ELIZA CARTHY: Dreams Of Breathing Underwater A  
(ライヴの空想的な夢音楽。w. Jon Boden, John Spiers, Martin Green, Eddie Reader, etc. 2008 作。Topic)
- \*FAUSTUS: Faustus B  
(Bellowhead の Benji Kirkpatrick [ヴォーカル、ギター、ブズーキ] & Paul Sartin [ヴォーカル、フィドル、オボエ] に Eliza Carthy の相棒で Waterson Carthy でイングランドのベスト・モード・デュオ奏者の Saul Rose から成る新生 Faustus の 2008 作。Navigator)
- \*BENJI KIRKPATRICK: Boomerang B  
(John Kirkpatrick の息子で Bellowhead, Faustus の Benji のソロ。1 曲を除き全曲 Benji のオリジナルで占められた本作は Bellowhead でのパ

ワをそのまま自身の声に注入したような気骨あるブリッシュ調 SSW  
アルバム。John Kirkpatrick&Sue Harris のご両親もバックアップ。2008 作。  
Navigator)

\*BENJI KIRKPATRICK:Half A Fruit Pie(2004 作。Fellside) A

\*THE MAERLOCK:Sofa A

(Royal Northern College Of Music で出会って結成された女性 2 名  
と男性 3 名の若きトラッド・グループのデビュー作。Lau の Aidan O'Rourke  
が「独創的で力強いアンサンブル・サウンド」と評。2008 作。Fellside)

\*LEON ROSSELSON:Turning Silence Into Song A

(Leon 氏の社会風刺や機知に飛んだ唄は老いてもなおかくしゃくとしてハツラツ。そんな自由な唄を Martin Carthy がご機嫌なギターで踊るようにバックアップする。聴き手を笑わせながら、社会の不条理を説く Leon のようなシガーはそうはいない。w. Frankie Armstrong, Miranda Sykes, Robb Johnson, Jody Stecher, etc. 2004 作。Fuse)

\*COOPE, BOYES AND SIMPSON:Triple Echo C

(副題“Songs Collected by Ralph Vaughan Williams, George Butterworth and Percy Grainger”。約 100 年前のフォーク・ソングの収集家の 3 名のコレクションから 17 曲をアカラ・トリオの CB&S がイングランド・スタイルのシンキングの薫り高く毅然とうたったもの。“Bushes And Briars”や“Lovely On The Water”ほか。2005 作。No Masters)

\*ARTISAN:Searching For Yorladale C

(副題“Songs Of The Yorkshire Dales From The Words Of Yorkshire Poet, Dorothy Una Ratcliffe, With Music By Brian Bedford”。1988 作。Bedspring Music)

\*ARTISAN:Live C

(2002 年アメリカの WFMT Radio でのライヴ。30トラック。2005 作。Bedspring Music)

\*VIVIEN ELLIS:The Dawn Songs A

(中世音楽とトラッドの両方に造詣が深い Vivien は Alva 時代同様本作でもスコットランド民謡、アイルランド民謡、中世音楽、アラリア民謡、宗教歌に加えてサバ・スタイルの 15 世紀イギリス起源の唄やブルガリア民謡等を極力素朴な美しさを追求めたかのような凜とした清涼なヴォイスとブルガリア民謡等その民謡固有の味わいを強くしたヴォイスとで唄の世界を旅するように唄う。2006 作。Beautiful Jo)

\*MAGPIE LANE:Knock At The Knocker, Ring At The Bell A

(副題“Carols, Songs & Tunes For The Christmas Season”。Andy Turner, Ian Giles, Marguerite Hutchinson, Mat Green, Sophie Polhill に Benji Kirkpatrick に代わり新加入のギター&ベース&ヴォーカルの Jon Fletcher から成るイングリッシュ・トラッド・シンキング & ダンス・バンドの Magpie によるイングランド産トラッド・アルバムとしてまたクリスマス期の唄と音楽のアルバムとして金字塔的名盤。2007 作。Beautiful Jo)

\*MAGPIE LANE:Six For Gold(2002 作。Beautiful Jo) B

\*KATHRYN TICKELL BAND:Instrumental C

(Kathryn のノサン・リアン・スモール・イースト・フィドルが滅茶苦茶見事な飛びつきりの 2007 作。Band としての前作も素晴らしかったが、本作もパイプの鮮やかさと表現力の豊かさと多彩さに満ちた音楽に心躍らさ

- れる。2007 作。Park)
- \*KATHRYN TICKELL+CORRINA HEWAT:The Sky Didn't Fall C  
 (ノサンパリアン・スモール・イフ&ワイドルの K. Tickell と先進的ハブの Corrina のデュエットはスコットランドとノサンパリアンの伝統回帰かつ女性的優美さに包まれた音楽。二人は思い出の曲や馴染み深い曲を慈しむように演奏し、唄う。2006 作。Park)
- \*THE RADIO BALLADS "The Song of Steel" B  
 (1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のプロデュースで BBCラジオで放送された"Radio Ballad"シリーズの 2006 年版"Radio Ballad"。副題"Stories Of The Men And Women Who Worked In The Steel Industry In The Don Valley"。2007 作。Gott Discs)
- \*THE RADIO BALLADS "Thirty Years Of Conflict" B  
 (1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のプロデュースで BBCラジオで放送された"Radio Ballad"シリーズの 2006 年版"Radio Ballad"。副題"Stories From Three Decades Of Sectarian Conflict In Northern Ireland"。Tommy Sands, Karine Polwart, Julie Mathews, Jez Lowe 等による 10 曲。2006 作。Gott Discs)
- \*THE RADIO BALLADS "The Ballad Of The Big Ships" B  
 (1950 年代に Ewan MacColl と Charles Parker のプロデュースで BBCラジオで放送された"Radio Ballad"シリーズの 2006 年版"Radio Ballad"。副題"Stories From The Shipbuilders Of The Tyne And The Clyde"。John Tams, Karine Polwart, Jez Lowe 等による 14 曲。2006 作。Gott Discs)
- \*NIC JONES:Penguin Eggs(不滅名盤。80 作。Topic) A
- \*NIC JONES:Game Set Match A  
 (Martin Carthy, Shirley Collins, Martin Simpson 等の音源提供で完成した N. Jones の 70 年代後半のライヴを収録した CD。全 15 曲。2006 作。Topic)
- \*BOB FOX:The Blast(2006 作。Topic) A
- \*BOB FOX:Dreams Never Leave You A  
 (ヴェラノン・トラット・シンガー、B. Fox の本作は、何と Fairport がバックを固めた瑞々しいもの。Bob 自身 Fairport とのりのよい付き合いを楽しむかのように伸びやかな唄を披露する。2000 作。Woodworm)
- \*SIMON MAYOR&HILARY JAMES:Duos B  
 (魅惑の個性的なトラット・シンガー、Hilary とマントリン音楽の道を探求する Simon のそれぞれの魅力が半々収められたライヴ集。録音は 1999~2000 年。2001 作。Acoustics)
- \*SOD'S OPERA:Come On Lads... B  
 (副題"Canteen Songs Of World War Two"。95 作。Beautiful Jo)
- \*ROUND CAPE HORN A  
 (副題"Traditional Songs Of Sailors, Ships And The Sea"。Ewan MacColl, Frankie Armstrong, A. L. Lloyd, Peter Bellamy, Cyril Twaney, Watersons, Mike Waterson, Roy Harris, Louis Killen。98 作。Topic)
- \*JOHN KIRKPATRICK:Carolling&Crumpets C  
 (J. Kirptarick の各種ジャンル奏き語りクリスマス・アルバム。2006 作。



- Fledg'ling)
- \*JOHN KIRKPATRICK-CHRIS PARKINSON: B  
 The Sultans Of Squeeze  
 (ジャパラの巨人お二人によるジャハラ二重奏パーティー！2005 作。  
 Fledg'ling)
- \*JOHN KIRKPATRICK:Orlando's Return B  
 (副題"53 English Traditional Tunes"。メロディオン、コンサティナ、アコーディオンによるダンス曲集。息子 Benji のギター&ベースでサポート。2000/2003 作。Molly)
- \*JOHN KIRKPATRICK:Carrick's Delight B  
 (副題"48 English Traditional Tunes"。メロディオン、コンサティナ、アコーディオンによるダンス曲集。息子 Benji のギター&ベースでサポート。2000/2003 作。Molly)
- \*GRAHAM METCALFE A  
 :Songs From Yorkshire And Other Civilisations  
 (1996 年作が CD 再発。Dave Burland の名作"The Dalesman's Litany" {偶然にも 1 曲目で"Dalesman's..."を取り上げているが}を想起させる見事な無伴奏トラッド・シンキングの世界だ。正にトラッド・シンキングの真髄。全 14 曲。96/2005 作。WildGoose)
- \*ABBIE LATHE:Avebury (2003 作。Park) C
- \*SHINING BRIGHT A  
 ("The Songs Of Lal&Mike Waterson"。Performed by Maddy Prior, Norma Waterson, Eliza Carthy, Richard Thompson, Linda&Teddy Thompson, Blue Murder, Dick Gaughan, Helen Watson, Billy Bragg, Martin Carthy, Christy Moore, Christine Collister&Oliver Knight, etc. 2002 作。Topic)
- \*ALONG THE COALY TYNE "Old And New Northumbrian Songs" A  
 (全 22 曲。Louis Killen, Johnny Handle, Tom Gilfellon, Colin Ross, Alistair Anderson。98 作。Topic)
- \*LYRA CELTICA:Lyra Celtica C  
 (ノサンバランドのトリオ。ムハは元 JSD Band のフィドラーの Chuck Fleming に"Young Traditional Musician Of The Year"賞受賞者の名アコ奏者の Lynn Tocker にバウロン他名打楽器奏者の Frank McGuire。Lyra の緩急自在なアコを要に Chuck と Frank がかぶさるスタイルでノサンバランド、アイルランド、スコットランドのトラッドを硬軟織り交ぜて楽しませる。2005 作。Lyra Celtica)
- \*JON LOOMES:Fearful Symmetry A  
 (若きトラッド・シンガーでギター奏者の Jon はイングランドのトラッド・ソングとダンスの伝統をばっちりキープした生え抜き。音楽性とギターのスタイルは多くの部分で Martin Carthy と重なるが若い分、勢いがある。w. Paul Scourfield {メロディオン}, Michael Beeke {リコーダー、イングリッシュ・ハープス}, Philip G. Martin {ハーティン・ギター}。2005 作。Fellside)
- \*CROSS CURRENT:Momentum B  
 (北イングランドからフレッシュ・デビューの女性 3 名と男性 2 名 {出身地はイングランド、ノサンバランド、アイルランド}の若き 5 人組。ハンジョー、ギター、ベース、キ、フルト、フィドル、ヴァイオリンによる演奏はイングランド、ノサンバランド、スコットランド、

アイルランドの音楽がクロスしたフレッシュでグルーヴ感ある音楽。音楽の質も完成度も高い。加えて男女のシンキングも気高く清楚で模範的。2005 作。CrossCurrent)

- \*JOLLY JACK&FRIENDS:Rolling Down To Old Maui A  
(Steve Turner, Richard Grainger, Barry Skinner, Linda Adams, Patti Reid 他のトラッド・ヴォーカル・グループ。99 作。Fellside)
- \*TICKLED PINK:Terpsichore Polyhymnia A  
(Simon Care, Guy Fletcher, Bob Kay, Trevor Landen, Gerald Claridge, Mark Hutchinson のラインナップの最強のフォーク・ロック・バンド。2005 作。Talking Elephant)
- \*WHAPWEASEL:Skirl Naked B  
(98 年作の 1 枚目。5 人組で Dave Ainsley のモチベーションを中心にこじんまりとまとまったエレクトリック・カントリー・ダンス。3 枚目のショック後聴くと初々しく端正な印象。Old Swan と Tiger Moth の中間的。Produced by Rick Kemp。Whapweasel)
- \*WHAPWEASEL:Burn B  
(サクスの Fiona と Stuart が加入し 7 人組になった Whapweasel の限りなく 3 枚目に近い 2 枚目。何といてもアコが抜群！Produced by Rick Kemp。2000 作。Whapweasel)
- \*WHAPWEASEL:Relentless B  
(英国各地のフォーク・フェスで大人気の 8 人組エレクトリック・カントリー・ダンス・バンドの 3 枚目。2003 作。Whapweasel)
- \*JACQUI McSHEE'S PENTANGLE:Passee Avant C  
(メンバーは Jacqui McShee [ヴォーカル], Gerry Conway [ドラムス], Spencer Cozens [キーボード], Alan Thomson [ベース], Jerry Underwood [サクス]。ゲスト:John Giblyn, Miles Bould。99 作。Park)
- \*ED RENNIE:Narrative A  
(一人ギター、シタンを爪弾き唄うトラッドの数々はとても自然。唄によっては Martin Carthy を想起させる味わいのものもあるが、Ed のシンキングには暖炉の温もりのようなものが感じられる。いい人のいい音楽だ。2004 作。Fellside)
- \*HEKETY:Furze Cat A  
(あの Crucible のメンバー 4 名のうち 3 名がメンバーのイングリッシュ・ダンス・バンドの Hekety のイングランド各地の勢いあるダンス曲のオンパレード。凄くカッコいい。2004 作。WildGoose)
- \*WATERSON・CARTHY:Holy Heathens And The Old Green Man A  
(クリスマス期のキャロルや伝承歌を中心に選曲された Norma&Eliza Waterasons, Martin Carthy, Tim Van Eyken の Waterason:Carthy のアルバム。ヴォーカル・グループ "Devil's Interval をゲストに迎え、めでたい日の健やかな合唱を中心にした Waterasons 家の伝統回帰のシンキング・アルバム。2006 作。Topic)
- \*NORMA WATERSON:Norma Waterason A  
(w.Eliza&Martin Carthy, Richard Thompson, Danny Thompson, Roger Swallow。96 作。Hannibal)
- \*MARTIN CARTHY AND DAVE SWARBRICK

- :Both Ears And The Tail A  
 (ご存知 1966 年 Nottingham の Folkus Folk Club でのライヴ。Swarb が Fairport に加入する 69 年までの 3 年間 Martin&Dave で活動。ほとんどのナンバーは Martin の初期のアルバムに収録されてはいるが、ここでは全曲編曲され直された形で即興性高く演奏されていて、臨場感抜群。2001 作。Gadfly)
- \*WATERSONS:The Definitive Collection ¥1880  
 (過去 30 年の Topic 収録の音盤からの 19 曲入編集 CD。2003 作。Highpoint)
- \*ELIZA CARTHY&NANCY KERR:Shape Of Scrape B  
 (今や伝説の Eliza&Nancy による 2nd。95 作。Mrs. Casey)
- \*STEELEYE SPAN:Hark!The Village Wait(70 作。Shanachie) A
- \*STEELEYE SPAN:Parcel Of Rogues(73 作。BGO) C
- \*STEELEYE SPAN:Storm Force Ten(リマスター。77 作。BGO) C
- \*STEELEYE SPAN:Sail On Silver B  
 (80 作。3 曲のボーナス・トラック{96 年のライヴ 2 曲と 97 年のライヴ 1 曲}付。Park)
- \*STEELEYE SPAN:The Lark In The Morning A  
 (初期 Steeleye のアルバムからの 33 曲入編集 CD。2 枚組。Sanctuary)
- \*STEELEYE SPAN:Individually & Collectively A  
 (Steeleye, Martin Carthy, Tim Hart, Maddy Prior の音源{1971&1972 年}からの編集盤。全 12 曲。2000 作。Edsel)
- \*MADDY PRIOR:Changing Winds(リマスター。78 作。BGO) C
- \*MADDY PRIOR&JUNE TABOR:Silly Sisters a  
 (宝物。76 作。Shanachie)
- \*JUNE TABOR:A Cut Above(80 作。with Martin Simpson。Topic)a
- \*JUNE TABOR:A Quiet Eye(99 作。Topic) a
- \*TONY ROSE:Under The Greenwood Tree C  
 (デジタル・リマスター-CD-R にて復刻。今聴いても見本のような素 晴らしき英国トラッドに酔うばかり。71/2004 作。Leader)
- \*PETER BELLAMY:Wake The Vaulted Echoes ¥2980  
 (マルチメディア機能付 3 枚組 CD。57 曲中 16 曲が未発表曲で、16 曲がレア曲。故 Peter Bellamy のあの魂のこもった心揺さぶられるシンキングが蘇る。マルチメディアでは、ライヴ・ビデオにインタビュー、おしゃべり、レクチャー等様々な角度から P. Bellamy が捧げる。20 世紀の大作。99 作。Free Reed)
- \*THE HUSH:Dark To The Sky C  
 (Hedgehog Pie の Bob Fox と Jed Grimes を中心に結成された北イングランドのフォーク・グループ。2002 作。MWM)
- \*SIMON HAWORTH:Taking Routes A  
 (心が真っ直ぐな純良フォーク&トラッド・シンガーの S. Haworth の Fellside からの 2 枚目。北イングランドの香り漂うフォーク〜トラッド・サウンドと印象にくっきりと残る美しい唄は深呼吸したいほど。w. Stewart Hardy {フィドルが良く唄う}, Steve Lawrence, Andy May {ノースブリアン・パイプ いいなあ}, Terry Haworth, Rachel Unthank。2003 作。Fellside)
- \*ANCIENT BEATBOX:Ancient Beatbox ¥1500  
 (Paul James&Nigel Eaton の実験的空想音楽。ゲスト:Sheila Chandra)

- 。89 作。Cooking Vinyl)
- \*IAN CARR・KAREN TWEED:Fyace A  
(スワップのKarenとIanのデュエット・アルバム。アコとギターのお遊び、楽しい会話そしてダンス。97 作。Compass)
- \*TWEED&CUTTING:One Roof Under A  
(Poozies〜SwapのKaren TweedとBlowzabella〜Wood&Cutting〜FernhillのAndy Cuttingの両名アコ奏者によるデュエット・アルバム。ゲスト:Ian Carr。2002 作。Fasco)
- \*WOOD・WILSON・CARTHY A  
(Chris Wood, Roger Wilson, Martin Carthyのお三方による気概あふれたイングリッシュ・トラッド・アルバム傑作。98 作。RUF)
- \*PAUL JAMES・MARK HAWKINS:Horse A  
(元BlowzabellaのP. James {サクソ、バグパイプ、フルト他}とキーボード&ブローラミング他のM. Hawkinsの本作はハイクとインランドのダンス音楽やアイルランドのゲールック・ソングやアラブやインド音楽等異質な音楽が同じ鍋で料理されたような異種交配音楽。w. Nigel Eaton, Luke Daniels, Sheila Chandra, Eleanor Shanley, etc. 2001 作。イタリヤFolkClub Ethnosuoni)
- \*1651:Cast A Bell A  
(元PyewackettでJune Taborの音楽プロバイザー-Mark Emersonの企画 {ブレイフォードの“English Dancing Master”の曲の新たな蘇生}にAndy Cutting {アコ}とTim Harries {ダブルベース}の敏腕プレイヤーが協力したもの。素晴らしきブレイフォードの世界。2001 作。Beautiful Jo)
- \*BRIAN PETERS&GORDON TYRRALL:The Moving Moon B  
(インランドを代表するトラッド・シンガー&各種ジャズ奏者B. Petersとトラッド・シンガー&ギター奏者G. Tyrrallのイングリッシュ・トラッドをベースにスコティッシュやアイルランドを盛り込んだ自由で風通しのよい、それできりっと英国的気品漂う最高のデュオ・アルバム。全15曲。2000 作。Gaho Music)
- \*BRIAN PETERS:The Beast In The Box ¥1500  
(モーターイオン&コンサティーナ奏者としても名高いB. Petersの軽快ジャズが弾む爽快イングリッシュ・ダンス音楽の洪水の中にきりっといかにもBrianらしい英国的なトラッド・シンギングを散りばめた良質の英国トラッド・アルバム。w. Nancy Kerr, Gordon Tyrrall, Dave Pope, Jenny Coxon。98 作。Pugwash)
- \*GORDON TYRRALL:So I've Heard ¥1500  
(英国トラッドの旨み漂うG. Tyrrallの2000 年作。インランドのトラッドのほか本作ではアイルランドのトラッドも数曲取り上げているが、インランド的端正なシンギングと栄え抜きのギターは、格別な味わいがある。全17曲。2000 作。Gaho Music)
- \*HARRY COX:The Bonny Labouring Boy D  
(副題“Traditional Songs&Tunes from a Norfolk from Worker”。ノフォークの偉大なトラッド・シンガーの45年から70年の未発表曲集。2枚組。P60の解説書付。英国民衆歌の遺産。2000 作。Topic)
- \*THE MUSIC OF WILLIAM KIMBER B  
(20世紀を代表するインランドのコンサティーナ奏者&モリス・ダンサー-W. Kimber {1872-1961}の未発表曲を多数含む32曲入マルチメディア機能付編集CD。

2冊の解説書付でマルチメディアには45枚の写真とフィルムやイラスト等多数が収録されている。99作。EFDSS)

- \*WALTER PARDON:A World Without Horses A  
(イングランドを代表するトラッド・シンガーの一人。74-80年にW. Pardonの自宅で録音されたもので、イングランドの有名トラッド曲を多く含む全20曲。詳細解説付。2000作。Topic)
- \*GRAHAM&EILEEN PRATT:Borders Of The Ocean A  
(元Regal SlipのGraham&Eileen夫妻の97作。Eileenは、イングランドのみならずアイルランドやスコットランドのバラッドを胸のすくような美声で酔わせ、唄の世界へと運ぶ。97作。Gail)
- \*THE HIGH LEVEL RANTERS:Gateshead Revisited a  
(CD-R。90作。メンバーはJohnny Handle, Colin Ross, Jim Hallの3名。ここでのHLRの唄と演奏は、より大衆的なもの。ノースハンプシャー・スモール・パブの心に響く曲やコミカルな唄など、より北イングランドの人々の心を豊かにするもの。フォーク・ミュージックの原点。90/99作。Common Ground)